

Windows版晴盲両用点字文書作成ソフト

ブレイルスター for Windows

バージョン 5

ユーザーズマニュアル

ニュー・フレイル・システム 株式会社

目 次

はじめに

“ブレイルスター for Windows”をご使用になるにあたって
製品の提供方法とインストール

動作環境

点字入力について

起動許可設定と解除について

ライセンスについて

コマンド実行の方法

 コマンドを実行するには

 トップメニューを開く

 コマンドを選択する

ダイアログボックスについて

 ダイアログボックスとは

 プッシュボタン

 ラジオボタン

 スピンドボックス

 エディットボックス

 コンボボックス

音声ソフト

 音声ソフトの設定

 点字ディスプレイ装置の機種設定

各種動作モードの設定・切替え

 入力方式の設定

 片手・両手入力の切替えをする

 スペースキー＋点字キーの機能設定

 コマンド実行時の入力方式設定

 テンキーの機能設定・切替え

 入力文字モードの設定

 表示方式の切替え

 カーソル行表示の切替え

 文字モードの切替え

 音声発声モードの切替え

 音声発声速度の設定

 音程の設定

 音声ボリュームの設定

 点字読みモードの設定

- 行読みの設定
- 連続読みの設定
- 点字ディスプレイ表示の切替え
- 点字ディスプレイカーソルの切替え
- 点字ディスプレイ連続読み速度の設定
- 自動行末処理機能の設定
- 単語短文ファイル設定
- 文書基本パス設定
- 表示文字色の設定
- 画面背景色の設定
- 表示文字サイズの設定

- 文書の入力にあたって
 - ページ書式を設定する
 - 行末・改行・改頁マークについて
 - 1文字削除
 - 自動行末処理機能について
 - 単語の途中で行替えをするには
 - 単語の上移動（分割）
 - 単語の下移動（分割）
 - 自動頁付け機能

- 第9章 片手入力について
 - 片手入力とは
 - パーキンスキー、ライトキーによる片手入力
 - テンキーの片手入力

- 各種音声読上げ
 - カーソル位置を確認するには
 - 現在の入力モードを確認するには
 - 現在編集集中の文書のファイル名を確認するには
 - 現在編集集中の文書の総頁数を知るには
 - カーソルが位置する行の行属性を確認するには
 - カーソルが位置する文字の詳細情報を知るには
 - カーソルが位置する1行を読むには
 - 文書を連続読みさせるには
 - 文書をピン連続読みさせるには

- ファイルの操作
 - 点字ファイル形式について
 - ファイル名について
 - 作成した文書を保存するには
 - 文書を上書き保存するには
 - 名前を付けて保存
 - 開く（文書の読込み）
 - 閉じる

閉じて開く
文書の新規作成
範囲書込み
追加読込み
外部読込み
外部書込み
備考入力
ウインドウ（編集文書）の切替え

カーソル移動

文書頭へ移動させるには
文書末へ移動させるには
前頁へ移動させるには
次頁へ移動させるには
任意頁へ移動させるには
任意位置へ移動させるには
頁上端へ移動させるには
頁下端へ移動させるには
頁末尾へ移動させるには
頁付け位置へ移動させるには
段落頭へ移動させるには
段落末へ移動させるには
前段落頭へ移動させるには
次段落頭へ移動させるには
行の左端へ移動させるには
行の右端へ移動させるには
行文末へ移動させるには
前の句点へ移動させるには
次の句点へ移動させるには
前句読点へ移動させるには
次句読点へ移動させるには
前単語頭へ移動させるには
次単語頭へ移動させるには
前の見出し行へ移動させるには
次の見出し行へ移動させるには
前のマーク行へ移動させるには
次のマーク行へ移動させるには
次行頭へ移動させるには

タブ

タブとは
タブ位置の設定
カーソルを次のタブ設定位置へ進めるには

削除

削除機能について

削除メニューを開いて削除するには

カーソルが位置する行を削除するには

カーソル位置から行末までを削除するには

カーソル位置から段落末までを削除するには

段落頭からカーソル位置手前までを削除するには

頁単位の削除を行うには

挿入

挿入とは

行を挿入するには

頁を挿入するには

複写

複写とは

複写を実行するには

メモリ複写

移動

移動とは

移動を実行するには

文字列の検索

検索とは

検索文字列の入力を行って検索を行うには

既に入力してある検索文字で後方向検索を行うには

既に入力してある検索文字で前方向検索を行うには

文字列の置換

置換とは

置換条件を設定して置換を実行するには

行属性の設定

属性とは

行書式の設定

見出し行の設定

マーク行の設定

インデント（字下げ）

インデントとは

インデントの設定

単語短文登録

単語・短文登録機能とは

単語を登録するには

登録した単語を呼び出すには
点字キー操作による単語呼出し
短文を登録するには
登録した短文を呼び出すには

点線

点線とは
点線を引くには

変換

変換とは
変換を行うには

頁の付け替え

頁の付け替えとは
頁を付け替えるには

自動目次作成

自動目次作成とは
目次を作成するには

“ブレイブリッジ for Windows” の自動翻訳機能呼び出す
普通字文書を点字文書に自動翻訳するには
点字文書を普通字文書に自動翻訳するには

点字印刷

点字プリンタ機種設定
Windowsのプリンタ設定
プリンタドライバの出力ポートの設定
点字印刷を行うには

墨字印刷

墨字印刷とは
墨字プリンタ設定
墨字印刷を行うには

「イージータクティクス」への点字文字印刷について 6 2

点字キーポジションの設定

付録

ホットキー・コマンド一覧
[Shift]キー+ホットキーコマンド一覧
[Ctrl]キー+ホットキーコマンド一覧

[Shift]キー+[Ctrl]キー+ホットキーコマンド一覧

[Alt]キー+ホットキーコマンド一覧

[Ctrl]キー+文字キーコマンド一覧

[スペース] +点字キー・コマンド一覧

はじめに

本ソフトは、晴盲両用点字文書作成ソフトです。パソコン付属のキーボードの一部を点字キーとして使用したり、通常キー入力によるローマ字入力やかな入力によって、点字文書の入力・編集が行えます。視覚障害者のためには、操作の細部にまで音声や点字ディスプレイ装置によるガイドをサポートしています。

主な特徴

1. パソコン付属のキーボードを用いて、パーキンスやライトブレイラー方式による点字入力と、通常キー入力によるかな入力やローマ字入力ができます。
2. “ブレイルブリッジ for Windows”を併用すれば
 - (1) クリップボードにコピーされた普通字を、点字に変換して貼り付け
 - (2) 指定範囲を普通字に変換して、クリップボードにコピーという機能が使用でき、点字と普通字の相互変換・データ交換が行えます。
3. コマンド実行は、Windows標準のマウス操作やプルダウンメニュー操作のほか、Escメニュー操作にも対応しました。また、ファンクションキー、テンキー、スペースキー＋点字キーなどによるダイレクト実行も可能です。
4. 各種視覚障害者用MS-Windows画面読みソフトに対応しているとともに、各種日本語MS-Speech API対応音声エンジンが使用できます。
5. 行単位、ページ単位、文字単位などのカーソル移動や編集（削除、移動、複写など）機能に加え、句読点単位、段落単位など、きめ細かく豊富なカーソル移動コマンドや編集機能を設けました。
6. “BASE”、“BE”、“BES”、“かなテキストファイル”など他文書形式ファイルの読み込みや書込みも容易に行えます。
7. マルチファイル操作に対応していますので、複数のファイルを同時にオープンして、文書編集を行うことができます。
8. その他文書の点字変換・かな変換・英語変換、頁の付け替え、折線行の設定、自動目次作成機能など便利な機能がたくさん用意されています。

“ブレイルスター for Windows”を ご使用になるにあたって

製品の提供方法とインストール

本製品は、ダウンロード版とCD-ROM版を用意しております。

ダウンロード版は、サイトからZIPファイルをダウンロードし、解凍後SETUP.EXEを実行してインストールを行ってください。90日間使用可能な体験版としてすぐにご利用いただけます。

体験版の試用期限後、引き続きご利用いただく場合は、製品ID設定パッケージをご購入いただき、ZIPファイルをメール受信のうえ、貼付ファイルの保存・解凍後、製品ID情報をセットしていただく必要があります。

CD-ROM版には製品ID情報が同梱されておりますので、別途製品ID情報のセットは不要です。

動作環境

対応OS : MS-Windows 10/11

メモリ : 32MB以上 64MB以上推奨

ハードディスク（必須） : 空き10MB程度

点字入力について

1. パソコンの機種によっては、付属のキーボードでは点字キー入力が正常に動作しない場合があります。そのような場合には、点字入力可能キーボードを別途ご購入いただく必要があります。
2. 本ソフトでは、パーキンスキー方式とライトブレイラーキー方式の2つの点字入力をサポートしていますが、その一方だけが正常に動作したり、出荷時のキーポジションでは点字入力が正常に動作しなくても、キーの位置を変更することによって点字入力が正常動作する場合があります。
3. 当社以外の点字入力対応ソフトをご使用の場合、本プログラム起動後は、他ソフトの点字入力状態をOFFに設定していただく必要があります。

起動許可設定と解除について

製品id設定後、初回起動時に、「起動許可設定」を行っていただきます。パソコンをインターネットに接続していれば行える「ネット設定」と、時間限定のパスワードを入力して行う「手動設定」の二つの方法を用意してあります。

「起動許可設定」は、規定の回数(3回)を超えては行うことができません。本ソフトをアンインストールする際には、必ずスタートメニューにある「起動許可設定解除」を行ってください。「起動許可設定解除」を行えば、設定回数のカウントダウンが行われます。

パソコンの故障等、やむを得ない事情で「起動許可設定解除」事情で「起動許可設定解除」が行えなかった場合、時間限定の設定パスワードが必要な場合は、プログラムidの情報とともに当社にご連絡ください。

ライセンスについて

1. 法人のお客様は、1ライセンス1台のパソコンに限定いたします。「起動許可設定」は3回まで行えますが、あくまで予備の回数です。
2. 個人購入のお客様は、購入者所有のパソコンに、ご自身が使用する目的ならば、無制限といたします。「起動許可設定」が3回を超えるような場合は、ご連絡ください。

ご購入者所有のパソコンであっても、他人が使用する目的の場合、ご自身が使用される目的で

あっても、他人が所有するパソコンにインストールすることは原則禁止いたします。

コマンド実行の方法

コマンドを実行するには

“ブレイルスター for Windows”では、作成した文書をディスクに保存したり、画面表示・入力方式・音声発声などの設定を変更したり、削除・複写・移動などの編集を行ったりなど、各機能を使うためには、以下のようなさまざまな方法があります。ご自分に最も使いやすい方法を見付けて操作してください。

- ① マウスを用いて各操作ボタンをクリックする
- ② [Alt]キーを押し、プルダウンメニューを開き、メニュー選択によって操作を行う
- ③ [Esc]キーを押し、ESCメニューを開き、メニュー選択によって操作を行う
- ④ ファンクションキーで操作を行う
- ⑤ [Space]キーまたは[無変換]([Nfer])キーと点字キーを同時に押す、点字キー・コマンドで操作する
- ⑥ テンキーをメニューキーに設定し、テンキーで操作する。これに習熟すると、非常に素早い操作性を得ることができ、本ソフトの推奨機能の1つです。
- ⑦ [Ctrl]キーや[Alt]キーを押しながら文字キーやファンクションキー、矢印キーなどを押して操作する

本書では、各コマンドの解説で、それぞれのキー操作の操作法を掲げるとともに、巻末には一覧表を掲載してありますので、ご参照ください。

以降この章では、Windowsのプルダウンメニュー操作を、キーボードを用いて操作する方法を解説いたします。

トップメニューを開く

文字入力状態で[Alt]キーを押すとトップメニュー選択状態となります。ここで左右の矢印キーを押すと、トップメニューの選択が行えます。メニューの名のあとに付けられているアルファベットはショートカットキーです。トップメニューを選択している状態で、このショートカットキーを入力すると、ダイレクトにそのメニューが選択されます。また、文字入力状態で[Alt]キーを押しながらこのショートカットキーを入力すると、直接目的のメニューを選択することができます。その際には指定したトップメニューに属するコマンドメニューの中で一番上にあるコマンドが注目され、コマンド選択状態となります。

コマンドを選択する

トップメニュー選択状態からそのメニューに属するコマンド選択状態に移るには、上または下の矢印キーを押します。たとえば「ファイルメニュー」を選択した状態で上または下矢印キーを押すと、「閉じて開く」以下のファイルメニューに属するコマンド一覧が現れます。同じメニューの別のコマンドを選択するには、上または下の矢印キーを押します。コマンド選択はロータリー式となっており、一番上または一番下のコマンドが選択されているときに、上または下矢印キーを押すと、一番下または一番上のコマンドに移ります。目的のコマンドを選択し、エンターキーを押すなどしてそれを実行することとなります。

それぞれのコマンドにはショートカットキーが付けられており、コマンド選択状態でそれを入力すれば、直接そのコマンドを実行することができます。また、シフトキーやコントロールキーと何かのキーを入力するようなホットキーが付いているコマンドについては、文字入力状態でこれを入力することにより、トップメニューやコマンド選択画面を開くことなく、直接そのコマンドを実行することができます。

※ コマンド選択状態で左右の矢印キーを押すと、別のトップメニューに属するコマンドが選択されてしまいます。

※ コマンド選択状態で[Esc]キーを押すと、トップメニュー選択状態となります。

※ コマンド選択状態で[Alt]キーを押すと、文字入力状態となります。

ダイアログボックスについて

ダイアログボックスとは

“ブレイルスター for Windows” のコマンドの多くは、ダイアログボックスと呼ばれる複数の設定項目を持った画面の操作となります。

たとえば“ブレイルスター”の「機器設定」メニューにある「点字ディスプレイ」というコマンドを実行すると、次頁にあるように「機種」、「出力先」、「OKボタン」、「キャンセルボタン」と4つの設定項目があります。

ダイアログボックスのオープン後は、[Tab]キーを押して次の設定項目に移動したり、[Shift]+[Tab]キーを押してひとつ前の設定項目に戻ったりして、各設定項目の設定を行う必要があります。それぞれの設定項目は、キーボードから文字を入力して設定するもの、上下左右の矢印キーを用いて選択するもの、スペースキーを押してチェックを付けたり外したりするもの、エンターキーを押して実行するものなどさまざまな種類があります。以下“ブレイルスター”のコマンド実行に必要な主なものについて、概略とキー操作を解説します。

プッシュボタン

プッシュボタンの上でエンターキーを押すと、その機能が実行されます。主なものにダイアログボックスで実行するコマンドや設定を有効にするOKボタン、無効にするキャンセルボタンがあります。

ラジオボタン

互いに関連した複数の選択肢から1つだけを選ぶ場合に利用します。選択には矢印キーを用います。

スピンボックス

数値を入力する場所です。エディットボックスと、その右側に付いた上下のボタンからなります。数値を変更するには、キーボードから数字を入力するか、上下矢印キーを使って数値を1段階ずつ変更します。

エディットボックス

ファイル名などキーボードから文字や数字を入力します。多くの場合、文字の入力後エンターキーの入力は必要ありません。[Tab]キーを押して、他の設定項目に移り、他の設定項目の設定を行ったり、その確認を行ったりすることとなります。もしエディットボックスでエンターキーを押すと、そのダイアログボックスそのものが実行されてしまいますのでご注意ください。

コンボボックス

上下左右の矢印キーを用いて選択候補の選択を行い、エンターキーで決定します。上または左矢印キーを押すと、1つ上の候補に移り、下または右矢印キーを押すと、1つ下の候補に移ります。

音声ソフト・点字ディスプレイ装置の設定

音声ソフトの設定

本ソフトを音声を頼りに操作される方、連続読み機能を用いて校正作業をなさる方は、音声ソフトの設定を行ってください。各種Windows画面読みソフトのほか、日本語MS-Speech API対応音声エンジンが設定可能です。もちろんそれらのソフトがWindowsシステムに前もってインストールされていることが前提となります。Windows画面読みソフト上でご使用になる際にも、P r o T A L K E R（日本アイ・ビー・エム社製）など他の音声エンジンソフトを設定するほうが、はるかにスピーディーな操作性を得ることができます。

音声ソフトを設定するには、「機器設定」メニューの「音声」を実行してください。以下のような画面が現れます。

音声設定	
音声	
種類(V):	使用しない
OK	キャンセル

種類：[→]、[←]を押すと、選択可能な音声ソフトの名前が現れますので、そのうちの1つを選択してください。選択候補が幾つかある場合には、いろいろ設定を変更してみて、好みの音声を見つけてください。

点字ディスプレイ装置の機種設定

点字ディスプレイ装置をご使用になれる方は、その機種設定と接続先の設定を行ってください。

点字ディスプレイを設定するには、「機器設定」メニューの「点字ディスプレイ」を実行してください。次のような画面が現れます。

点字ディスプレイ設定ー※	
点字ディスプレイ	
機種(P):	使用しない
出力先(O)	
<input type="radio"/> COM1	<input type="radio"/> COM2
通信速度(S)	9600
OK	キャンセル

機種：[→]、[←]を押すと、選択可能な点字ディスプレイ装置の機種名が現れます。ご使用になる点字ディスプレイの機種名を選択してください。

出力先：パソコンと点字ディスプレイとを接続するシリアルポートまたわUSBの設定を行ってくださ

い。

通信速度：通信速度の設定です。接続する機器の設定と合わせてください。

※ この設定は、次回本ソフトを起動したときから反映されます。

各種動作モードの設定・切替え

入力方式や画面表示方式、音声の発声方法や点字ディスプレイの表示方法など、種々の動作モードの設定、切替えの方法について解説します。特に本ソフトを初めてご使用になる際には、ご自身の使用環境に合わせるために、すべてのモードをご確認ください。

入力方式の設定・切替え

F D S - J K L（出荷時設定）のキーを点字の6点キーに当てはめたパーキンス点字入力方式、O K M - E F V（出荷時設定）のキーを点字の6点キーに当てはめたライトブレイラー点字入力方式、フルキー（通常キー）入力方式の設定が行えます。

入力方式の設定・切替えを行う際には、[Shift]+[Tab]キーを押してください。3つの入力モードがトグルに切り替わります。または、「モード設定」メニューの「入力方式」を選択してください。次のような画面が現れます。

入力方式(I)	パーキンス(P)
	ライトブレイラー(W)
	フルキー(F)

次に設定したい入力方式を選択してください。パーキンスまたはライトブレイラーの点字入力を選択すると、次のような画面が現れます。

パーキンス(P)	両手(D)
ライトブレイラー(W)	右手(R)
フルキー(F)	左手(L)

通常は「両手」を選択してください。「右手」または「左手」を選択すると、右手または左手のみでの片手入力が行えます。入力方法につきましては第9章をご参照ください。

パーキンス入力モードにあるときに[0]（出荷時設定）キー、ライトブレイラー入力モードにあるときに[I]（出荷時設定）キーを押すと、右片手入力と両手入力の切替えが、パーキンス入力モードにあるときに[W]（出荷時設定）キー、ライトブレイラー入力モードにあるときに[R]（出荷時設定）キーを押すと、左片手入力と両手入力の切り替えが行えます。なお、誤ってこれらのキーが押されて入力モードが変更されてしまうのを避けるために、この切替えを禁止することができます（次項参照）。

「フルキー」を選択すると、次のような画面が現れます。

フルキー(F)	直接(D)
	ローマ字(R)

直接： アルファベットキーの入力を行った際、そのままアルファベット文字で入力されます。

ローマ字：アルファベットキーの入力はローマ字のかな入力となります。

フルキー入力モードにあるときに、[変換]([Xfer])キーを押すと、直接入力とローマ字入力の切り替えが行えます。

片手・両手入力の切替えをする・しないの設定

パーキンスまたはライトブレイラーの点字入力を行っている際、誤って片手両手切替キーを押してしまい、入力モードが変更されてしまう恐れがあります。そこで切替えキーを押してもモードが変わらないように設定することができます。片手入力をご使用にならない方は、切替えを禁止しておくことをおすすめいたします。設定を行うには、「モード設定」メニューの「片手両手切替」を選択してください。次のような画面が現れます。

片手両手切替(B)	する(Y)
	しない(N)

スペースキー＋点字キーの機能設定

パーキンスまたはライトブレイラーの点字入力で、スペースキーまたは無変換([Nfer])キーと点字キーを同時に押した際の機能の設定です。スペースキー＋点字キーをコマンド実行キーに使用すると無変換([Nfer])キー＋点字キーが登録語呼出しキーとなり、スペースキー＋点字キーを登録語呼出しキーに設定すると、無変換([Nfer])キー＋点字キーがコマンド実行キーとなります。設定を行うには、「モード設定」メニューの「スペース＋点字キー」を選択してください。次のような画面が現れます。

スペース＋点字キー(E)	する(Y)
	しない(N)

コマンド実行時の入力方式設定

パーキンスまたはライトブレイラーの点字入力を設定した場合、コマンド実行時（ファイル名などダイアログボックス内での文字入力）の入力方式を、点字キーにするか、フルキーにするかの設定です。設定を行うには、「モード設定」メニューの「コマンド実行時」を選択してください。次のような画面が現れます。

コマンド実行時(X)	点字キー(B)
	フルキー(F)

テンキーの機能設定・切替え

テンキーの機能を数字入力キーまたは片手入力キー、メニューキー、カーソル移動キーのいずれかに設定することができます。数字キーとして設定できるのは入力方式がフルキー入力にあるときのみで、片手入力キーとして設定できるのはパーキンスまたはライトブレイラーの点字入力状態にあるときです。テンキーの機能を切り替えるには、[Alt]+[Home]([Clear])キーを押してください。3つのモードがトグ

ロに切り替わります。または「モード設定」メニューの「テンキー」を選択してください。次のような画面が現れます。

テンキー(N)	↳数字キー(N)
	メニューキー(M)
	カーソル移動キー(C)
	片手入力キー(B)

数字キー：これに設定すると、通常の数値入力キーとして機能します。

メニューキー：これに設定すると、コマンドメニューキーとして機能します。各キーの機能は以下のとおりです。

- [1]：点線
- [2]：属性（行書式・見出し行・マーク行など）
- [3]：墨字印刷
- [4]：文字検索
- [5]：カーソル移動
- [6]：タブ設定
- [7]：複写
- [8]：移動
- [9]：削除
- [0]：ページ書式
- [.]：点字印刷
- [/]：ファイル
- [-]：ツール
- [+]：置換
- [,]：単語短文

カーソル移動キー：これに設定すると、カーソル移動キーとして機能します。各キーの機能は以下のとおりです。

- [1]：前単語頭
- [2]：下端
- [3]：次単語頭
- [4]：左端
- [5]：次検索
- [6]：右端
- [7]：前段落
- [8]：上端
- [9]：次段落
- [0]：前句読点
- [.]：次句読点
- [/]：文書頭
- [*]：文書末
- [-]：前見出行

[+] : 次見出行

片手入力キー : これに設定すると、片手入力キーとして機能します。

入力文字モードの設定・切替え

パーキンスまたはライトブレイラーの点字入力では、点字、かな点字、かなの3つの入力文字モードがあります。

入力文字モードを切り替えるには、[Shift]+[変換]([Xfer])キーか点字コマンド「き」を押してください。3つのモードがトグルに切り替わります。または、「モード設定」メニューの「入力文字」を選択してください。次のような画面が現れます。

入力文字(C)	点字(B)
	かな点字(T)
	かな(K)

点字 : 点字パターンそのものが入力されます。

かな点字 : 記号類の普通字表示は最少限にとどめるかわりに、点字かな規則に該当しない入力でも点字パターンで入力され、入力が受けつけられます。点訳者が点字出力のみを前提とした点字文書作成に最も適した表示方法です。

かな : 記号類も普通字表示します。点字プリンタBT-5000またはBT-2000で点字とかなの同時印刷を行う際や、記号類をも普通字表示したいときに設定してください。この入力モードでは、パソコンのキーボード上にない記号や、点字の規則に該当しない特殊な点字を入力することはできません。ただし、かな文書と点字出力とのマス数を同じにするために、数符、外字符、外国語引用符、大文字符などは点字パターンで入力されます。またかぎ括弧や丸括弧など点字入力方法と点字出力（点字印刷や墨点字印刷を行う際）とが異なるものもあります（巻末の「記号類の点字入力一覧」と「記号類の点字出力一覧」をご参照ください）。

表示方式の切替え

凸面表示、凹面表示の2つの表字方式があります。表字方式の切り替えを行うには、[Shift]+[Esc]キーを押してください。2つの表示方式が交互に切り替わります。または、「モード設定」メニューの「表示方式」を選択してください。次のような画面が現れます。

表示方式(M)	▽凸面(T)
	凹面(0)

凸面表示 : 通常の画面表示方式で、左から右へ文字が書かれていき、点字の表示は凸面表示となります。

凹面表示 : 点字版やライトブレイラー点字タイプライターで点字を書くような感覚で、通常の文字入力では右から左へ文字が書かれていき、点字の表示は凹面表示となります。

カーソル行表示の切替え

カーソルが位置する行を際立たせるために、カーソルが位置する行全体を反転表示させたり、アンダ

ーライン表示させることができます。カーソル行表示の切替えを行うには、[Ctrl]+[Space]キーを押してください。通常・反転・アンダーラインの3つの表示モードがトグルに切り替わります。または、「モード設定」メニューの「カーソル行」を選択してください。次のような画面が現れます。

カーソル行(L)	└通常(N)
	└反転(R)
	└下線(U)

文字モードの切替え

パーキンスキーまたはライトブレイラーキーの点字入力モードでは、かな、数字、英小文字、英大文字の文字モードの切り替えが行えます。通常のキー入力では数符を入力すれば数字モードに、外文字、あるいは外国語引用符を入力すれば英小モードに切り替わりますが、すでに入力されている文字の置き換えなどの際には、文字モードの切り替えを行う必要があります。たとえば、「a」を「b」に置き換える場合、かなモードで1，2の点の入力を行ったのでは「い」が入力されてしまいます。その際には文字モードを英小モードに切り替えてから1，2の点の入力を行います。この文字モードは、音声ノーマル読みの文字モードの切り替えにも用いられます。

文字モードを切り替えるには[変換]([Xfer])キーか、点字コマンド「え」を押してください。4つのモードがトグルに切り替わります。または、「モード設定」メニューの「文字モード」を選択してください。次のような画面が現れます。

文字モード(K)	└かな(K)
	└数字(N)
	└英小(L)
	└英大(H)

※ この機能を用いて文字モードを英小、あるいは、英大に切り替えた場合には、外国語引用符の閉じ記号を入力しても文字モードはかなにはなりません。文字モードをかなにする際には、本切替機能を用いて行ってください。

音声発声モードの切替え

オン・ガイド・オフの3つの音声発声モードがあります。音声発声モードを切り替えるには[Alt]+[f・1]キーを押してください。3つのモードがトグルに切り替わります。または「モード設定」メニューの「音声発声」を選択してください。次のような画面が現れます。

音声発声(V)	└オン(O)
	└ガイド(G)
	└オフ(F)

オン：文字入力やカーソル移動による文字の読上げ、メニュー操作のガイドなどすべての音声発声を行います。

ガイド：入力文字の音声読上げは行われません。カーソル移動の文字の読上げやメニュー操作のガイドは音声発声されます。

オフ：連続読み以外はすべての音声発声が行われません。連続読み機能を用いて、文書の校正作業のみに音声発声機能をご使用になる方は、これに設定してください。

音声発声速度の設定

音声発声速度を5段階に切り替えられます。音声発声速度を切り替えるには、[Alt]+[f・5]キーを押してください。5段階の速度がトグルに切り替わります。また、[Alt]+[Q]キーを押すと1段階ずつ速く、[Alt]+[A]キーを押すと、1段階ずつ遅く設定されます。または、「モード設定」メニューの「音声速度」を選択してください。次のような画面が現れます。

速度		
スピード(S):	OK	
3	キャンセル	

音程の設定

音程を9段階に切り替えられます。音程を切り替えるには、[Alt]+[Z]キーを押すと1段階ずつ高く、[Alt]+[X]キーを押すと、1段階ずつ低く設定されます。または、「モード設定」メニューの「音程設定」を選択してください。次のような画面が現れます。

音程		
音程(T):	OK	
4	キャンセル	

音声ボリュームの設定

音声ボリュームを9段階に切り替えられます。音声ボリュームを切り替えるには、[Alt]+[P]キーを押すと1段階ずつ大きく、[Alt]+[L]キーを押すと、1段階ずつ小さく設定されます。または、「モード設定」メニューの「音声ボリューム」を選択してください。次のような画面が現れます。

音声ボリューム		
ボリューム(V):	OK	
8	キャンセル	

点字読みモードの設定

点字文字入力時、またはカーソルを前方向に移動した際の点字文字の読みについて、「ノーマル読み」と「ひとマス読み」の2つの点字読みモードがあります。点字読みモードを切り替えるには、[Alt]+[f・3]キーか、点字コマンドの「の」を押してください。2つのモードが交互に切り替わります。または「モード設定」メニューの「点字読み設定」を選択してください。次のような画面が現れます。

点字読み設定(T)	ノーマル読み(N)
	1マス読み(S)

ノーマル読み : たとえば、5の点を入力したときにはピリピリっというビープ音を出し、その次に「か」が入力された段階で「が」と発音させ、点字データを通常のかなに変換して読上げを行います。

ひとマス読み : 1の点を「あ」、5の点を「ごのてん」のように点字ひとマスごとの点字の位置が何らかの形で特定できる読上げを行います。

行読みの設定

上下のカーソルキーが押された際、移動先行の内容をすべて音声発声するか、移動先の1文字のみを音声発声させるかの設定が行えます。行読上げのモードを切り替えるには[Alt]+[f・7]キーを押してください。2つのモードが交互に切り替わります。または「モード設定」メニューの「行読み設定」を選択してください。次のような画面が現れます。

行読み設定(R)	する(Y)
	しない(N)

連続読みの設定

文書を連続読みさせる際のモードを「なめらか読み」と「詳細読み」とで切り替えられます。連続読みモードの切り替えを行うには、[Alt]+[f・10]キーを押してください。2つのモードが交互に切り替わります。または「モード設定」メニューの「連続読み設定」を選択してください。次のような画面が現れます。

連続読み設定(A)	なめらか読み(N)
	詳細読み(S)

なめらか : 不用な記号類の読みは行わず、句読点単位でなめらかな連続読みを行います。本ソフトを用いて音声読書する際に設定してください。

詳細 : マス空けの区切りがわかり、記号類も含めて詳細な連続読みを行います。文書の校正作業を行う際に設定してください。

点字ディスプレイ表示の切替え

点字ディスプレイ表示のオン・オフの切り替えが行えます。点字ディスプレイ表示を切り替えるには、[Alt]+[f・2]キーを押してください。オン・オフが交互に切り替わります。または「モード設定」メニューの「点字ディスプレイ表示」を選択してください。次のような画面が現れます。

点字ディスプレイ表示(P)	オン(O)
	オフ(F)

点字ディスプレイカーソルの切替え

点字ディスプレイカーソルの表示を「アンダーライン」・「オールマーク」・「オフ」のいずれかに設定できます。点字ディスプレイカーソルの表示を切り替えるには、[Alt]+[F・8]キーを押してください。3つのモードがトグルに切り替わります。または「モード設定」メニューの「点字ディスプレイカーソル」を選択してください。次のような画面が現れます。

点字ディスプレイカーソル(0)	▽アンダーライン(U)
	オールマーク(A)
	オフ(F)

点字ディスプレイ連続読み速度の設定

点字ディスプレイの連続読みを行う際、その待ち時間（次の行を表示するまでの時間）を2秒から5秒の範囲で設定できます。点字ディスプレイ連続読み速度の切り替えを行うには、[Alt]+[F・9]キーを押してください。4つのモードがトグルに切り替わります。または「モード設定」メニューの「連続読み待ち」を選択してください。次のような画面が現れます。

連続読み待ち(D)	▽2秒(2)
	3秒(3)
	4秒(4)
	5秒(5)

自動行末処理機能の設定

単語単位での自動行移し機能（ワードラップ機能）を「する」、「しない」の設定が行えます。自動行末処理機能を設定するには「モード設定」メニューの「自動行末処理」を選択してください。次のような画面が現れます。

自動行末処理(W)	▽する(Y)
	しない(N)

単語短文ファイル設定

単語短文登録ファイルは、任意に作成・切替えが可能です。作成文書の分野別などで作成し、切り替えて利用してください。単語短文ファイルの切替え、作成を行うには、「モード設定」メニューの「単語短文ファイル」を実行してください。次のような画面が現れます。

単語短文ファイル

ファイル名(N)

BS.DIC

ファイル一覧(L):

名前

サイズ

更新日時

BS.DIC

105 KB

1999/11/12 15:30

OK

キャンセル

削除(D)

ファイル名 : 単語短文登録ファイルを新規に作成する場合、ここにファイル名を入力してください。

ファイル一覧 : 単語短文登録ファイルを切り替える場合、一覧から選択してください。

削除 : 既存の単語短文登録ファイルを削除する場合に、これを実行してください。

文書基本パス設定

通常作成文書の読書きをするドライブ、フォルダを任意に指定しておくことができます。文書基本パスを設定するには、「モード設定」メニューの「文書基本パス設定」を実行してください。次のような画面が現れます。

文書基本パス設定

フォルダ名入力(F)

OK

キャンセル

フォルダ名入力 : 通常作成文書の読書きをする場所を「A:¥」とか「C:¥TEXT¥」のように、ドライブ名、フォルダ名をフルパスで指定してください。

表示文字色の設定・変更

画面表示の文字色を、行の属性によって任意に設定することができます。「表示」メニューの「画面設定の「行文字色」」には以下のようなサブメニューが用意されています。

画面設定(v)

行文字色

通常行(D)

頁行(P)

見出し行(T)

折れ線行(R)

たとえば「通常行」を実行すると、次のような色選択の画面が現れます。好みの色を設定してください。

通常行の文字色設定

<input checked="" type="radio"/> 黒	<input type="radio"/> 茶色	<input type="radio"/> 緑	<input type="radio"/> オリーブ
<input type="radio"/> 紺	<input type="radio"/> 紫	<input type="radio"/> 青緑	<input type="radio"/> 灰色
<input type="radio"/> 銀	<input type="radio"/> 赤	<input type="radio"/> 黄緑	<input type="radio"/> 黄色
<input type="radio"/> 青	<input type="radio"/> 赤紫	<input type="radio"/> 水色	<input type="radio"/> 白
その他(0)		OK	キャンセル

画面背景色の設定

画面背景色を任意の色に設定することができます。「表示」メニューの「画面設定」の「背景色」を実行し、設定してください。

表示文字サイズの設定

表示文字サイズを10ポイントから144ポイントの範囲で設定することができます。「表示」メニューの「画面設定」の「文字サイズ」を実行すると、以下のような画面が現れます。最も見やすい文字サイズに設定してご使用ください。

文字サイズ変更

サイズ(S):16	OK
ポイント単位:10~144	キャンセル
プレビュー	

文書の入力にあたって

ページ書式を設定する

点字文書の入力にあたって、まずは1行のマス数や1頁の行数など、ページ書式に関する設定を行ってください。もちろん既に作成した文書の書式を適宜変更することは可能です。

ページ書式を設定・変更するには、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) Escメニューの「F：頁設定」を実行
 - (2) [Ctrl]+[F]
 - (3) テンキーメニュー「0：ページ書式」を実行
 - (4) 「ファイル」メニューの「ページ書式」を実行
- 次のような画面が現れます。

ページ書式	×
1行文字数(C): 32	OK
1頁行数(L): 22	キャンセル
✓ 頁付けをする(P)	
両面印刷(D)	
◎しない ○両面インターライン ○両面インターポイント	
折れ線面(S)	
◎ 付けない ○ 全面	
○ 奇数面のみ ○ 偶数面のみ	
折れ線行(R) カンマ区切りの数値	
標準の書式として登録(I)	

1行文字数：1行の文字数を設定してください。

1頁行数：1頁の行数を設定してください。

頁付けをする：チェックすると、各頁の1行目を頁行として処理します。チェックなしでは、各頁の1行目も通常の文書行として処理します。

両面印刷：印刷方法の設定です。この設定の内容によって、折れ線面の設定、点字印刷時の設定、自動目次作成を行ったときの処理が異なってきます。

折れ線面：「付けない」、「全面」と両面印刷の設定を行った際に「奇数面のみ」、「偶数面のみ」の設定が行えます。

折れ線行：折れ線面を設定した際に、どの行を折れ線とするか指定します。頁内の3箇所まで設定することができますので、行数をコンマ記号で区切って記述してください。折れ線として設定された行は、通常の文書行からは除外され、挿入や削除の際にはスキップして処理がなされるとともに、点字印刷時には折れ線が印刷されます。

標準の書式として登録：これをチェックして実行すると、今回設定したページ書式が、次回から本ソフトを起動した直後のページ書式や、「新規作成」を実行した際のページ書式として採用されることとなります。

行末・改行・改頁マークについて

“ブレイルスター for Windows”では、行末・改行・改頁マークの三つの特殊文字が採用されています。

(1) 行末マーク (⊙) は、各行の文末を示します。何も文字が入力されていない行では1マス目に位置し、文字を入力していくと1マスずつ行末方向に移動していきます。

カーソルを前進方向に移動させて行末マークの上にくると、その行でそれ以降にカーソルは進まず、次行の頭に移動します。この行末マークを採用することによって、各行の文末が明確になり、文字の挿入や削除などの編集の際、行末のスペースがそのまま生かされます。

したがって、“ブレイルスター for Windows”で点字文書を作成する際には、行末のマス空けの数にも十分配慮して文書作成を行ってください。通常の1マス空けの部分では1マス、句点のあとなどの2マス空けが必要な部分では2マス、説明の丸括弧や、助詞のみを節約のために次行に移したところでは、0マスとならなければなりません。

ぎょーたんい、へーし たんいなど の へんしゅー⊙
・ ・ さくじょ、いとー、ふくしゃなど ・ きの一に くわえ、 ⊙
・ くとーてん たんい、 た ん ら く たんいなど が あります。 ⊙

(2) 改行マーク (↓) は、挿入モードでは任意の場所で、上書モードでは行末マークの上でエンターキーを押すと入力されます。挿入モードでエンターキーを押すと、カーソル位置に改行マークが入力され、カーソル位置以降の文字が次行の先頭に移動され、カーソルも次行の先頭に位置します。いわゆる行分割の機能となります。

この改行マークが入力されたところは、文字の挿入や削除が行われても、決して次行の文字と結合されることはありません。文章の段落位置など、結合処理がなされてはならない場所では必ず改行マークを入力してください。

・ にゅーりよくや ろーまし にゅーりよくか て きます。 ↓
・ ↓
・ か めん ひょーし も たさい↓
・ にゅーりよく もし の てんし ひょーし ・ かな ⊙

(3) 改頁マーク (→) は、挿入モードでは任意の場所で、上書モードでは文書末で[Ctrl]+[エンター]を押すと入力されます。改頁マークが入力されている部分では、文字や行の挿入・削除などの編集の際必ず改頁処理がなされますので、表紙の頁、目次の最後の頁、章が改まる頁では必ず改頁マークを入力してください。

挿入モードで改頁マークの入力を行うと、カーソル位置に改頁マークが入力され、カーソル以降の文書が次頁に移り、頁分割の処理がなされます。

- ・いる　ことの　かくにんを　おこなって　くたゝさい。 ↓
 ・ —————→
 ・
 ・
 ・ たゝい・３しょー ふゝんしょ さくせいの ◎
 ・ てじゅん↓

1 文字削除

1文字を削除するには、[Del]を押す方法と、[Bs]を押す方法とがあります。[Del]を押した場合には、カーソルが位置した1文字が削除され、カーソル以降の文字が1文字ずつ手前に移動します。カーソル位置そのものは動きません。[Bs]を押した場合には、カーソルの1文字手前の文字が削除され、カーソル位置の文字以降がカーソルとともに1文字手前に移動します。

自動行末処理機能について

「モード設定」メニューの「自動行末処理」を「する」に設定してあると、行末の単語がその行におさまらない場合、前のマスあけの部分から自動的に次行に移す自動行末処理機能が働きます。

たとえば、1 行のマス数を32マスに設定してあるとき、32マス目で文字の入力を行うと、カーソルは33マス目に移動します。そこでスペース以外の文字を入力すると、ひとつ手前のマス空けの部分から次行に移されます。

33マス目以降でスペース、改行、改頁の入力を行った場合には、そのままその位置に入力されます。

単語の途中で行替えをするには

助詞や説明の丸括弧部分など、本来行中ならばひと続きに書くべきものを、行末では行がえを行うことがあります。その場合は、行末マークの上で[→]キーを押してください。するとカーソルは次行の先頭に移動しますから、そこから書き始めてください。この場合、手前で挿入や削除が行われた際、行中でひと続きになる可能性がありますので、前行の行末にはスペースを入力しないようにしてください。

単語の上移動（分割）

自動行末処理機能が働くために、説明の丸括弧部分など、長いひと単語が行頭に位置し、前行の行末にたくさんの空白ができてしまう場合があります。

- ・ ぎょーたんい、 へ°ーしゝ たんいの ◎
・ へんしゅー・さくじょ、 いとゝー、 ふくしゃなどゝ ・ きのーに ◎

そのような場合、任意の場所で単語を分割して、前行の行末に移動させることができます。この文字までを前行に移動したいという文字の上にカーソルを置いて[Ctrl]+[Ins]または[F・11]キーを押してください。

- ・ ぎょーたんい、 へーし たんいの へんしゅー◎
 ・ ・ さくじょ、 いとー、 ふくしゃなと ・ きのーに くわえ、 ◎

単語の下移動（分割）

行末の単語をスペースを入れずに分割して、次行に移したいときがあります。そのような場合は、これ以降の文字を次行に移動したいという場所にカーソルを置いて、[Shift]+[Ins]または[F・12]キーを押してください。

自動頁付け機能

「ファイル」メニューの「ページ書式」で「頁付けをする」にチェックをしてあると、各頁の1行目は頁行として扱われ、文字入力中、新しい頁にカーソルが移動したときに、前の頁の頁行がその頁の頁行にコピーされ、頁行の最後に書かれている数字を点訳頁とみなし、1つ数を加算して自動頁付けを行います。点訳頁の前に書かれている原本頁などは、前頁と同じ内容になります。また、挿入や削除などの編集の際、頁行は除外されて編集が行われます。

原本頁など頁行で文字の入力や削除を行った際、点訳頁は動きません。点訳頁を後方に移動したいときは、数符の上にカーソルを置いてスペースの入力を行ってください。点訳頁を前方に移動したいときは、数符の上にカーソルを置いて[BS]を押してください。

片手入力について

片手入力とは

点字入力モードでは、パーキンスキーまたはライトキーによる右手あるいは左手のみの片手入力と、テンキーによる片手入力が行えます。

パーキンスキーまたはライトキーの片手入力と両手入力との切り替えは、パーキンスキーでは[0]（出荷時設定）で片手右に、[W]（出荷時設定）で片手左に、ライトキーでは、[I]（出荷時設定）で片手右に、[R]（出荷時設定）で片手左に切り替わります。ただし、片手入力を使用しない方が、誤ってこれらのキーを押して、片手入力モードに入ってしまう混乱を避けるために、「モード設定」メニューに「片手・両手切替え」という設定を設けてあり、「する・しない」の設定が行えます。

テンキーを片手入力モードに設定するには、[Alt]+[Home]（[Clear]）を押すか、「モード設定」メニューで「テンキー」の機能設定で、片手入力に設定してください。

パーキンスキー、ライトキーによる片手入力

パーキンスキーまたはライトキーによる片手入力では、1マスを1、2、3の点と、4、5、6の点に分け、2ストロークで1マス分の入力を行います。また、三つの点のほかに0の点を設け、0の点を入力すると、1ストローク目では1、2、3の点の空白を、2ストローク目では4、5、6の点の空白の入力となります。

たとえば、1の点のみを入力するには、1ストローク目で1の点の入力を行い、2ストローク目では0の点の入力を行います。4の点のみを入力するときには、1ストローク目で0の点の入力を行い、2ストローク目で4の点の入力を行います。

それぞれの入力方式における出荷時キー配置は次のとおりです。

パーキンス右	J K Lが【①②③】あるいは【④⑤⑥】の点、；キーが0の点
パーキンス左	F D Sが【①②③】あるいは【④⑤⑥】の点、Aキーが0の点
ライトブレイラー右	O K Mが【①②③】あるいは【④⑤⑥】の点、@キーが0の点
ライトブレイラー左	E F Vが【①②③】あるいは【④⑤⑥】の点、Aキーが0の点

テンキーの片手入力

テンキーを片手入力キーモードに設定した場合、各キーの機能は以下のように割り当てられます。

[4] : 1の点	[1] : 2の点	[0] : 3の点
[5] : 4の点	[6] : 5の点	[+] : 6の点
[2] : 左カーソル移動	[3] : 右カーソル移動	[.] : 下カーソル移動
[7] : バックスペース	[8] : スペース	[9] : デリート

各種音声読上げ・ピンディス表示機能

カーソル位置を確認するには

- (1) [F・9]
 - (2) [Alt]+[;]
 - (3) 点字コマンド「か」
 - (4) 「読上げ」メニューの「カーソル位置」を実行
- 「何ページ 何行 何列」というように、現在のカーソル位置を読上げまたはピンディス表示します。

現在の入力モードを確認するには

- (1) [F・7]
 - (2) [Alt]+[@]
 - (3) 「読上げ」メニューの「入力モード」を実行
- 「パーキンスキー、両手、挿入」というように、現在の入力モード関連の状態を音声読上げまたはピンディス表示します。

現在編集集中の文書のファイル名を確認するには

- (1) [Shift]+[F・10]
 - (2) [Alt]+[-]
 - (3) 「読上げ」メニューの「ファイル名」を実行
- 現在入力・編集集中の文書名を読上げ・ピンディス表示します。

現在編集集中の文書の総頁数を知るには

- (1) [Shift]+[F・11]
 - (2) [Alt]+[[]]
 - (3) 「読上げ」メニューの「総頁」を実行
- 現在入力・編集集中の文書の総頁数を読上げ・ピンディス表示します。

カーソルが位置する行の行属性を確認するには

- (1) [F・8]
 - (2) 「読上げ」メニューの「行属性」を実行
- カーソルが位置する行に中寄せや見出し行の設定が行われていると、その情報を音声読上げ・ピンディス表示します。

カーソルが位置する文字の詳細情報を知るには

- (1) [Alt]+[テンキーの5]
 - (2) [Alt]+[,]
 - (3) 点字コマンドの「2、6の点」
 - (4) 「読上げ」メニューの「文字詳細読み」を実行
- 「1、2の点」とか「かなあさひのあ」のように、カーソル位置の文字の詳細読上げが行われます。

カーソルが位置する1行を読むには

- (1) [Alt]+[テンキーの0]
- (2) [Alt]+[.]

- (3) 点字コマンド「3の点」
- (4) 「読上げ」メニューの「1行読み」を実行

文書を連続読みさせるには

- (1) [Shift]+[Home]([Clear])
- (2) 点字コマンドの「お」
- (3) 「読上げ」メニューの「連続読み」を実行

現在のカーソル位置から文書の連続読みが開始されます。

文書をピン連続読みさせるには

- (1) [Shift]+[F・9]
- (2) 点字コマンドの「よ」
- (3) 「読上げ」メニューの「ピン連続読み」を実行

現在のカーソル位置から文書のピン連続読みが開始されます。

ファイルの操作

点字ファイル形式について

点字ファイルは、作成されたソフトや保存形式によってさまざまなファイル形式が存在します。“ブレイルスター for Windows”では、さまざまな点字ファイル形式の読み込み、保存が可能です。特に他のソフトで作成された点字ファイルを読み込む（開く）際や、本ソフトで作成した点字ファイルを、他のソフトで読み込む際には、どの形式の点字ファイルであるかを指定する必要があります。

ファイル名について

文書を作成し、ディスクに保存する際には、たとえば「TEST.BS」のようにファイル名をつけます。このファイル名のつけ方にはいくつか規則があります。

1. ファイル名は、ファイル名本体部分と拡張子部分に分けられます。上の例では、「TEST」がファイル名本体で、「.BS」が拡張子です。

2. 拡張子は、「.」に続けて、3文字まで書くことができます。この拡張子で、そのファイルがどういうファイルであるかを表します。以下に“ブレイルスター for Windows”で扱える点字ファイルの種類とその拡張子の一覧を掲げます。

ブレイルスターⅢ(.BS) : “ブレイルスターⅢ”、“ブレイルスター for Windows”標準の点字ファイル形式です。

ブレイルスターⅡ(.BLE) : “ブレイルスターⅡ”標準の点字ファイル形式です。

ブレイルスター(.BLS) : “ブレイルスター Ver 1”形式の点字ファイル形式です。

BASE(.BSE) : “BASE”形式の点字ファイル形式です。

BE(.BET) : “BE”形式の点字ファイル形式です。

BES(.BES) : “BES”形式の点字ファイル形式です。

コータクン(.NAB) : “コータクン”の点字ファイル形式です。

かなテキスト(.KAN) : 半角カタカナと英数記号、全角ひらがな・カタカナと英数記号（半角記号に相当する全角記号）で記述された点字ファイル形式です。拡張子の「KAN」というのは、本ソフトでの決め事であり、かなテキストファイルの拡張子の付け方については、各ソフトによってまちまちです。

書式付NABCC(.NB) : NABCC（北米点字コード）で記述された点字文書で、各物理行の末に必ず改行コードが入り、点字プリンタにデータ転送すればそのまま点字印刷が行えるようになったファイルです。拡張子「NB」というのは、本ソフトでの決め事であり、この形式の拡張子の付け方については、各ソフトによってまちまちです。

書式なしNABCC(.TXN) : NABCC（北米点字コード）で記述された点字ファイルで、各論理行（各段落）の末に改行コードが入ったファイルです。拡張子の「.TXN」というのは、本ソフトでの決め事であり、この形式の拡張子の付け方については、各ソフトによってまちまちです。

ブレイルライト形式(BLT) : 点字電子手帳の“ブレイルライト”の点字ファイル形式で、改行コードや改ページコードがコントロールコードで記述された形式です。

書式付ブレイルライト形式(BLF) : 点字電子手帳の“ブレイルライト”の点字ファイル形式で、改行コードや改ページコードが点字コードで記述された形式です。

作成した文書を保存するには

作成中の文書をディスクに保存するには、「ファイル」メニューの「上書き保存」を実行する方法と、同じく「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」を実行する方法とがあります。「上書き保存」を実行すると、作成中の文書を同じ場所に、同じ名前で、同じ形式で何の問い合わせもなく上書き保存することができます。「名前を付けて保存」を実行すると、ファイル名、保存場所、ファイル形式の指定

を行って文書を保存することができます。

文書を上書き保存するには

作成中の文書を上書き保存するには、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[S]
- (2) 「ファイル」メニューの「上書き保存」を実行

何の問い合わせもなく作成中の文書が上書き保存されます。ただ、新規作成の文書について、1度も文書保存を行っていない状態でこれを実行すると、「名前を付けて保存」が自動実行されます。

名前を付けて保存

作成中の文書をファイル名、保存場所、ファイル形式を指定して保存するには、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[W]
- (2) [Shift]+[Ctrl]+[f・2]
- (3) テンキーメニューの「/:ファイル」の「5:書込み」を実行
- (4) E s cメニューの「T:ファイル」の「5:書込み」を実行
- (5) 「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」を実行
- (6) 点字コマンドの「せ」

次のような画面が現れます。

名前を付けて保存×

ファイル名(N):

文書の種類(T):

ドライブおよびネットワークリソース(D):

ブレイルスターⅢ形式(*.bs)

(C:)

フォルダ(F):

C:¥

.....

OK キャンセル

.....

文書基本パスとして登録(H)

.....

.....

文書一覧

名前	ページ数	備考	サイズ	更新日時
ABS	127		83KB	1999/11/02 14:04
bsw.bs	180		85KB	1999/11/25 13:39
DPW.BS	108		53KB	1999/12/17 18:11

削除(E)

ファイル名 : ここに保存ファイル名を入力します。最初は未入力または、すでに設定されているファイル名が現れています。保存場所のドライブ名やフォルダ名を確実に入力できる場合には、「C:¥DOC¥TEXT.BS」のようにパス名、ファイル名本体、拡張子を入力してエンターキーを押して実行してもかまいません。他の設定項目でファイルの形式や保存場所を設定する場合は、ファイル名本体のみを入力してください。拡張子はプログラム

が自動付加します。その場合ここでエンターキーを押してはいけません。

文書の種類 : 文書の保存形式の設定項目です。現在設定されている形式とその拡張子が表示されています。保存形式を変更する場合は、ここで左右の矢印キーを押して、目的の形式を選択してください。

ドライブおよびネットワークリソース : 保存先のドライブ等を選択してください。

フォルダ : 保存先のフォルダ（ディレクトリ）を選択してください。

文書基本パスとして登録 : これを実行すると、現在選択されているフォルダが文書基本パスとして登録されます。

開く（文書の読み込み）

すでに作成され、ディスクに保存された点字ファイルを読み込むには以下のいずれかの操作を行ってください。これで文書を開いた際には、既に関開かれ、編集集中の文書はそのまま残されます。

(1) [Ctrl]+[O]

(2) 「ファイル」メニューの「開く」を実行

ファイル読み込みのダイアログボックス画面が現れます（「名前を付けて保存」の項を参照）。

ファイル名 : 読み込みファイル名を入力する場所で、最初は未入力となっています。読み込みファイル名のドライブ名やフォルダ名を確実に入力できる場合には、「C:\¥DOC¥TEXT.BS」のようにパス名、ファイル名本体、拡張子を入力してエンターキーを押してください。読み込みが実行されます。一覧から選択して読み込みを行う場合には、何も入力する必要はありません。

文書の種類 : 読み込み文書形式の設定項目です。現在設定されているファイル形式とその拡張子が表示されています。形式を変更する場合は、ここで左右の矢印キーを押して、目的の形式を選択してください。

フォルダ : 読み込み文書が存在するフォルダ（ディレクトリ）を選択してください。

文書の一覧 : 現在選択されているフォルダに存在するファイル名が一覧されています。目的のファイルをここで選択し、エンターキーを押せば、読み込みが開始されます。

削除 : これを実行すると、文書の一覧で選択されているファイルを削除することができます。

※ 1度開いたファイルについては、5つを限度とし「ファイル」メニューの下部にそのファイル名が表示されています。したがってこれらのファイルを再度読み込むには、「ファイル」メニューの目的のファイルを選択してエンターキーを押してください。

※ このコマンドで文書を読み込んだ場合には、既に編集していた文書はそのままに、新たに読み込まれた文書のウインドウがオープンされます。

閉じる

複数の文書をオープンして編集集中に、現在画面表示されている文書（アクティブな文書ウインドウ）をディスクに保存するなどして閉じる場合、または1つの文書を編集集中であっても、それを保存するなどし、すぐに新規作成で別の文書を編集する場合、[Ctrl]+[F・4]キーを押すか、「ファイル」メニューの「閉じる」を実行してください。その際、閉じようとした文書が更新されており、まだ保存が行われていない場合には、保存のための警告画面が現れますので、指示に従って操作してください。

閉じて開く

編集集中の文書をディスクに保存するなどして、その文書ウインドウを閉じ、すぐにそのあと別の文書を読み込むために「閉じて開く」というコマンドを用意してあります。以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Shift]+[Ctrl]+[F・1]
- (2) 点字コマンドの「ろ」
- (3) 「ファイル」メニューの「閉じて開く」を実行。

文書の新規作成

作成中の文書はそのままに、新しく文書ウインドウをオープンすることができます。複数の文書を同時編集する際、新しくオープンする文書をディスクに保存されている既存の文書ではなく、新規にオープンしたい場合には、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[n]
- (2) 「ファイル」メニューの「新規作成」を実行。

範囲書込み

範囲書込みは、文書の一定の範囲を頁単位または行単位で指定してディスクへの保存を行います。頁単位・行単位は文書書式によって異なります。

範囲指定の開始頁または開始行にカーソルを置いて「ファイル」メニューの「範囲書込み」を実行してください。文書保存のダイアログが現れます（「名前を付けて保存」の項を参照）。各設定項目を設定し実行してください。最後に終点の指定が促されますので、カーソルを終点に移動してエンターキーを押してください。保存作業が開始されます。

追加読込み

追加読込みは、現在編集中的文書のカーソル頁またはカーソル行位置に、ディスクに保存されているファイルを追加して読み込みます。頁単位・行単位は文書書式によって異なります。

追加読込みを行いたい頁または行にカーソルを置いて以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) 点字コマンドの「ま」
- (2) 「ファイル」メニューの「追加読込み」を実行。

追加読込みのダイアログが現れます（「名前を付けて保存」の項を参照）。各設定項目を設定し実行してください。

外部読込み

点字電子手帳や別のパソコンなど、他の機器から文書を読み込むためのメニューです。他の機器とは、シリアル（R S 2 3 2 C）ケーブルで接続されていることが前提となります。

「ファイル」メニューの「外部読み込み」を実行してください。以下のような画面が現れます。

外部読み込み

選択してください

1: 入力形式

2: 入力元

3: 通信速度

4: フロー制御

4: 実行

C: キャンセル

入力形式 : 「ブレイルメモ」「N A B C C」「書式付きN A B C C」「カナテキスト」「ブレイルライト」「書式ブレイルライト」の6つの形式の読込みが行えます。

入力元 : パソコンと外部機器とを接続するシリアルポートを設定します。

通信速度 : 通信速度の設定です。接続する機器の設定と合わせてください。

フロー制御 : フロー制御の設定です。接続する機器の設定と合わせてください。

実行：これを選択すると「転送を開始します。準備ができたならエンターキーを押してください。」というメッセージが現れます。接続機器からの送信準備を行ったあと、エンターキーを押して、「受信」のメッセージを確認したあと、接続機器からのデータの送信を行ってください。

外部書込み

点字電子手帳や別のパソコンなど、他の機器へ文書を送信するためのメニューです。他の機器とは、シリアル（RS232C）ケーブルで接続されていることが前提となります。

外部書込みを行うには、全文を送信する場合は任意のカーソル位置で、範囲を指定して送信を行う場合には、その開始行または開始ページにカーソルを置いて、「ファイル」メニューの「外部書込み」を実行してください。

次のような範囲指定画面が現れます。

外部書込み範囲

選択してください

1: 全文

2: 範囲指定

全文：これを選択すると、外部書込み設定画面が現れます（前項参照）。

範囲指定：これを選択すると、「外部書込み範囲どこまで」というメッセージが現れますので、カーソルを終了行または終了頁に移動してエンターキーを押してください。外部書込みのための設定画面が現れます（前項参照）。

備考入力

作成文書をディスクに保存する際、文書の詳しい内容などを記載し、ファイル選択時に画面や点字ディスプレイに表示させることができます。「ファイル」メニューの「備考入力」を実行してください。

ウインドウ（編集文書）の切替え

複数の文書を開いている場合には、「ウインドウ」メニューの下部にその一覧が表示されます。ウインドウの切替えを行う際には、目的の文書を選択し、エンターキーを押してください。また、以下のようなキー操作が可能です。

[Ctrl]+[Tab]：ひとつ次のウインドウに切り替えられます。

[Shift]+[Ctrl]+[Tab]：ひとつ手前のウインドウに切り替えられます。

カーソル移動

文書頭へ移動させるには

- (1) [Ctrl]+[Home]
- (2) [Ctrl]+[Page Up]
- (3) 点字コマンドの「と」
- (4) テンキーカーソル移動メニューの[/]
- (5) カーソル移動メニューの「文書頭」を実行

文書末へ移動させるには

- (1) [Ctrl]+[End]
- (2) [Ctrl]+[Page Down]
- (3) 点字コマンドの「ら」
- (4) テンキーカーソル移動メニューの[*]
- (5) 「カーソル移動」メニューの「文書末」を実行

前頁へ移動させるには

- (1) [Page Up]または[Roll Down]
- (2) [F・1]
- (3) 点字コマンドの「は」
- (4) 「カーソル移動」メニューの「前頁」を実行

次頁へ移動させるには

- (1) [Page Down]または[Roll Up]
- (2) [F・2]
- (3) 点字コマンドの「ね」
- (4) 「カーソル移動」メニューの「次頁」を実行

任意頁へ移動させるには

- (1) [F・3]
- (2) 点字コマンドの「に」
- (3) 「カーソル移動」メニューの「任意頁」を実行

任意位置へ移動させるには

「カーソル移動」メニューの「任意位置」を実行

頁上端へ移動させるには

- (1) [Shift]+[Ctrl]+[Page Up]または[Shift]+[Ctrl]+[Roll Down]
- (2) 点字コマンドの「う」
- (3) カーソル移動メニューの「頁上端」を実行。

頁下端へ移動させるには

- (1) [Shift]+[Ctrl]+[Page Down]または[Shift]+[Ctrl]+[Roll Up]
- (2) 点字コマンドの「し」

(3) カーソル移動メニューの「頁下端」を実行。

頁末尾へ移動させるには

- (1) [Shift]+[Page Down]または[Shift]+[Roll Up]
- (2) 点字コマンドの「つ」
- (3) パーキンス入力の場合[G]+[H]、ライトブレイラーの場合[B]+[N]
- (4) カーソル移動メニューの「頁末尾」を実行。

頁付け位置へ移動させるには

- (1) [Shift]+[Page Down]または[Shift]+[Roll Up]
- (2) 点字コマンドの「へ」
- (3) カーソル移動メニューの「頁行」を実行。

段落頭へ移動させるには

[Ctrl]+[←]

段落末へ移動させるには

[Ctrl]+[→]

前段落頭へ移動させるには

「カーソル移動」メニューの「前段落」を実行

次段落頭へ移動させるには

「カーソル移動」メニューの「次段落」を実行

行の左端へ移動させるには

- (1) [Home]
- (2) [Shift]+[←]
- (3) 点字コマンドの「ひ」
- (4) 「カーソル移動」メニューの「左端」を実行

行の右端へ移動させるには

- (1) [End]
- (2) [Shift]+[→]
- (3) 点字コマンドの「み」
- (4) 「カーソル移動」メニューの「右端」を実行

行文末へ移動させるには

パーキンス入力の場合[Y]、ライトブレイラー入力の場合[H]

前の句点へ移動させるには

- (1) [Shift]+[Ctrl]+[↑]
- (2) 「カーソル移動」メニューの「前句点」を実行

次の句点へ移動させるには

- (1) [Shift]+[Ctrl]+[↓]
- (2) 「カーソル移動」メニューの「次句点」を実行

前句読点へ移動させるには

- (1) [Ctrl]+[↑]
- (2) 「カーソル移動」メニューの「前句読点」を実行

次句読点へ移動させるには

- (1) [Ctrl]+[↓]
- (2) 「カーソル移動」メニューの「次句読点」を実行

前単語頭へ移動させるには

- (1) [Shift]+[Ctrl]+[←]。
- (2) 「カーソル移動」メニューの「前単語」を実行

次単語頭へ移動させるには

- (1) [Shift]+[Ctrl]+[→]。
- (2) 「カーソル移動」メニューの「次単語」を実行

前の見出し行へ移動させるには

- (1) [Alt]+[↑]
- (2) 「カーソル移動」メニューの「前見出し行」を実行

次の見出し行へ移動させるには

- (1) [Alt]+[↓]
- (2) 「カーソル移動」メニューの「次見出し行」を実行

前のマーク行へ移動させるには

「カーソル移動」メニューの「前マーク」を実行

次のマーク行へ移動させるには

「カーソル移動」メニューの「次マーク」を実行

次行頭へ移動させるには

[Shift]+[エンター]

タブ

タブとは

タブ機能は、行の任意のカラム位置にタブを設定しておき、[TAB]キーなどの入力によって、現在のカーソル位置から次のタブ設定位置まで自動的にスペースを入力しながらカーソルを進める機能です。見出しや表を書く際の字下げに大変便利です。

タブ位置の設定・解除を行うには

タブ位置の設定または解除を行う際には、タブを設定または解除したいカラム位置にカーソルを置いて、以下のいずれかの操作を行ってください。

(1) [Ctrl]+[F・7]

(2) 点字コマンドの「4、5の点」

上記2つの操作では、カーソル位置にタブが設定されていれば解除の処理が、未設定ならば設定処理がなされます。

(3) E s cメニューの「B：タブ」を実行

(4) テンキーメニューの「6：タブ」を実行

(5) 「書式」メニューの「タブ」を実行

「書式」メニューの「タブ設定」を実行すると、次のような画面が現れます。

タブ設定 (T)	設定 (S)
	解除 (D)

「設定」または「解除」を選択して実行してください。

カーソルを次のタブ設定位置へ進めるには

カーソルを次のタブ設定位置へ進めるには以下のいずれかの操作を行ってください。

(1) [Tab]

(2) パーキンス入力方式の場合[SPACE]+[G]、ライトキー入力方式の場合[SPACE]+[B]

(3) 点字コマンドの「た」

削除

削除機能について

さまざまな単位で文書を削除する機能が用意されています。大きく分けて行単位、頁単位、文字単位など範囲を指定して削除するものと、カーソル位置から指定文字までを削除するものがあります。なお、誤って削除してしまうことを考慮し、全文削除を除き、削除された内容は、「メモリ」に保持されます。したがって、削除を行った直後であれば、「メモリ複写」の機能を用いて、削除した内容を復元することができます。

削除メニューを開いて削除するには

削除メニューを開いて削除を行うには、その開始位置にカーソルを置いて、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[D]
- (2) [Shift]+[Ctrl]+[F・4]
- (3) Escメニューの「D：削除」を選択
- (4) テンキーメニューの「9：削除」を選択
- (5) 「編集」メニューの「削除」を実行。
「編集」メニューの「削除」を実行すると、次のような画面が現れます。

削除

処理単位

- 行削除(L) ○次の改行まで(R) ○次の句点まで(K)
○次の句読点まで(T) ○段落削除(B) ○範囲指定(C)
○頁削除(P) ○全文削除(A) ○行末削除(E)

OK

キャンセル

処理単位を選択し、実行してください。

カーソルが位置する行を削除するには

- (1) [F・4]
- (2) [Shift]+[Del]
- (3) 点字コマンドの「さ」

カーソル位置から行末までを削除するには

- (1) [Shift]+[Bs]
- (2) 点字コマンドの「れ」

カーソル位置から段落末までを削除するには

[Ctrl]+[Del]

段落頭からカーソル位置手前までを削除するには

[Ctrl]+[Bs]

頁単位の削除を行うには
[Shift]+[F・4]

挿入

挿入とは

現在カーソルが位置する場所に、空白行や空白頁を挿入します。

行を挿入するには

カーソルが位置する行とその前の行との間に空白行（行頭に改行マークのみが入った行）を挿入するには以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [F・5]
- (2) 点字コマンドの「そ」
- (3) Escメニューの「I：挿入」の「1：行挿入」を実行
- (4) 「挿入」メニューの「行」を実行

頁を挿入するには

現在カーソルが位置する頁とその前の頁との間に空白の1頁（頁頭に改頁マークだけが入った頁）を挿入するには、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Shift]+[F・5]
- (2) 点字コマンドの「ゆ」
- (3) Escメニューの「I：挿入」の「2：頁挿入」を実行
- (4) 「挿入」メニューの「頁」を実行

複写

複写とは

文書の一定の範囲（行単位、頁単位、文字単位の指定が可能）を指定し、指定された文書を別の場所にコピーする機能です。複数の文書を同時編集している際には、別の文書へコピーすることも可能です。複写を行った内容は「メモリ」に保持されますので、同じ内容を数カ所に複写する際には、「メモリ複写」の機能を用いてください。

複写を実行するには

行単位の場合はその開始行に、頁単位の場合はその開始頁に、文字単位の場合はその開始文字にカーソルを置き、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[C]
 - (2) [Shift]+[Ctrl]+[F・5]
 - (3) 点字コマンドの「こ」
 - (4) Escメニューの「C：複写」を実行
 - (5) テンキーメニューの「7：複写」を実行
 - (6) 「編集」メニューの「複写」を実行。
- 「編集」メニューの「複写」を実行すると、次のような画面が現れます。

複写

処理単位

☒ 行単位(L)

☐ 頁単位(P)

☐ 文字単位(C)

OK

キャンセル

処理単位を選択し、実行してください。

「複写どこまで？」というメッセージが現れます。カーソルを複写したい範囲の最後の行、または頁、または文字に移動し、エンターキーを押してください。

「複写どこに？」というメッセージが現れます。カーソルを複写したい場所に移動してエンターキーを押してください。複数の文書を編集していて、別の文書へ複写する場合は、ここでウインドウの切替えを行ってから（「ファイル操作」の章の「ウインドウの切替え」の項を参照）複写したい場所へカーソルを移動します。

メモリ複写

全文削除を除く削除の機能、複写、移動を行った際には、その内容が「メモリ」に保持されています。誤って削除機能を実行してしまい、削除された内容を復元したいとき、複写や移動を行い、同じ内容を別の場所にもコピーしたいときに「メモリ複写」を実行してください。「メモリ複写」を行う際には、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[V]
- (2) 点字コマンドの「ふ」
- (3) Escメニューの「C：複写」の「4：メモリ複写」を実行
- (4) テンキーメニュー「7：複写」の「4：メモリ複写」を実行
- (5) 「編集」メニューの「メモリ複写」を実行

移動

移動とは

文書の一定の範囲（行単位、頁単位、文字単位の指定が可能）を指定し、指定された文書を一時削除した後、別の場所にコピーする機能です。複数の文書を同時編集している際には、別の文書へ移動することも可能です。移動を行った内容は「メモリ」に保持されます。

移動を実行するには

行単位の場合はその開始行に、頁単位の場合はその開始頁に、文字単位の場合はその開始文字にカーソルを置き、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[M]
 - (2) [Shift]+[Ctrl]+[F・6]
 - (3) 点字コマンドの「て」
 - (4) Escメニューの「M：移動」を実行
 - (5) テンキーメニューの「8：移動」を実行
 - (6) 「編集」メニューの「移動」を実行。
- 「編集」メニューの「移動」を実行すると、次のような画面が現れます。

移動

処理単位

☒ 行単位 (L)

☐ 頁単位 (P)

☐ 文字単位 (C)

OK

キャンセル

処理単位を選択し、実行してください。

「移動どこまで？」というメッセージが現れます。カーソルを移動したい範囲の最後の行、または頁、または文字に移動し、エンターキーを押してください。すると、指定された範囲の文書が一時削除されます。

「移動どこに？」というメッセージが現れます。カーソルを移動先に移動してエンターキーを押してください。複数の文書を編集していて、別の文書へ移動する場合は、ここでウインドウの切替えを行ってから（「ファイル操作」の章の「ウインドウの切替え」の項を参照）移動先へカーソルを移動します。

文字列の検索

検索とは

文書中の文字列を検索し、カーソルを検索文字列の先頭に移動します。検索には、新たに検索文字列の入力を行って検索を行う方法と、前に入力した検索文字でそのまま検索を行う方法とがあります。さらに現在のカーソル位置より文書末に向かって（後方向）検索を行うものと、文書頭に向かって（前方向）検索を行うものがあります。

検索文字列の入力を行って検索を行うには

新たに検索文字列の入力を行い検索を行うには、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[U]
- (2) [Shift]+[F・7]
- (3) 点字コマンドの「も」
- (4) Escメニューの「S：検索」を実行
- (5) テンキーメニューの「4：検索」を実行
- (6) 「編集」メニューの「検索」を実行

次のような検索文字入力等のダイアログボックス画面が現れます。

検索		
検索文字列(N)		
検索方向		OK
<input checked="" type="radio"/> 後方向(D)	<input type="radio"/> 前方向(U)	キャンセル

検索語入力： 検索文字列を入力してください。

検索方向： 後方向または前方向の設定を行ってください。

既に入力してある検索文字で後方向検索を行うには

- (1) [Shift]+[↓]
- (2) [Shift]+[F・8]
- (3) Escメニューの「J：カーソル移動」の「5：後検索」を実行
- (4) [Ctrl]+[J]でカーソル移動メニューを開き「5：後検索」を実行
- (5) テンキーメニューの「5：カーソル移動」の「5：後検索」を実行
- (6) パーキンス入力方式の場合[SPACE]+[H]、ライトキー入力方式の場合[SPACE]+[N]
- (7) 編集メニューの「後方向検索」を実行

既に入力してある検索文字で前方向検索を行うには

- (1) [Shift]+[↑]
- (2) [Shift]+[F・3]
- (3) 「編集」メニューの「前検索」を実行

文字列の置換

置換とは

文書中に書かれた文字列を検索し、それを別の文字列に置き換えます。したがって、置換を行う際には、検索文字列と置換文字列の両方の文字列の入力を行います。また、置換のやり方として、検索文字列が見つかるたびに無条件に置換を行うものと、検索文字列が見つかるたびに置換を行うかどうかの問い合わせを行って、置き換えたいものだけを置換する方法とがあります。また、置換の範囲は現在のカーソル位置から後方向の文書について行うもの、前方向について行うもの、あるいは、カーソル位置に関係なく文書全体を対象とするものの3つの方法があります。

置換条件を設定して置換を実行するには

以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[H]
- (2) [Shift]+[Ctrl]+[F・7]
- (3) Escメニューの「H：置換」を実行
- (4) テンキーメニュー「+：置換」を実行
- (5) 点字コマンドの「ち」
- (6) 編集メニューの「置換」を実行

次のような置換条件設定のダイアログボックス画面が現れます。

置換			
検索文字列(N)			
置換文字列(P)			
✓置き換え時に確認(C)			
検索方向			
<input checked="" type="radio"/> 後方向(D)	<input type="radio"/> 前方向(U)	<input type="radio"/> 全文(A)	OK
			キャンセル

検索文字列 : 置換前の文字列を入力してください。

置換文字列 : 置換後の文字列を入力してください。

置き換え時に確認 : チェックありでは、検索文字が見つかるたびに、置き換えを実行するかどうかの確認があります。チェックなしでは、検索文字列が見つければ無条件に置き換えを実行します。

検索方向 : 後方向・前方向・全文のいずれかの設定を行ってください。

行属性の設定

属性とは

属性とは、「特別な」というような意味です。特別な行として設定できるものとして、左寄せ・中寄せ・右寄せの行書式に関するものと、見出し設定、マーク設定、インデント設定とがあります。この行属性に関する情報は、“ブレイルスターⅢ”形式で保存したときのみ保持され、他のファイル形式で文書保存を行った場合には、属性情報は失われてしまいますのでご注意ください。

行書式の設定・変更

行書式の設定・変更を行うには、目的の行にカーソルを置いて以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Shift]+[F・1]
 - (2) Escメニューの「E：属性」の「1：行属性設定」を実行
 - (3) [Ctrl]+[E]で「属性」メニューを開き「1：行属性設定」を実行
 - (4) テンキーメニューの「2：属性」の「1：行属性設定」を実行
 - (5) 「書式」メニューの「行書式」を実行
- 「書式」メニューの「行書式」を実行すると、次のような画面が現れます。

行書式設定(L)	左寄せ(L)
	中寄せ(C)
	右寄せ(R)
	設定解除(N)

左寄せ・中寄せ・右寄せの設定を行うと、カーソル行に対してその処理が施されるとともに、以降その行で文字の挿入や削除が行われるたびに、毎回設定された書式の処理が施されます。

たとえば中寄せを設定すると、その行に書かれていた文字の中寄せ処理が施されます。そのあとは文字の挿入を行ったり削除を行うたびに毎回中寄せ処理が施されることとなります。したがって、ユーザーの目的のところに文字を位置させることができないかもしれません。その場合には、行書式の設定を解除しなければなりません。行書式の設定を行っておけば、たとえ1行のマス数を変更されても、前の設定がそのまま生かされて、設定されている書式の処理が自動的に施されます。

見出し行の設定・解除

見出し行の設定を行うと、自動目次作成の際、指定した行のみを見出しとして抽出することができます。また、カーソル移動機能によって、次の見出し行とか、前の見出し行の機能を用いて、設定した行にカーソルを移動させることができます。

なお、見出し行が複数行にわたる場合、最初の行のみに見出し設定を行い、点字規則に従い、2行目以降の見出し行は、2マス下げて記述してください。見出し行の設定または解除を行う場合には、目的の行にカーソルをおいて、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Shift]+[F・2]
- (2) 点字コマンドの「4、5の点」

見出し行の「設定」、「解除」が交互に切り替わります。

または

- (3) Escメニューの「E：属性」の「2：見出し行」を実行
 - (4) テンキーメニュー「2：属性」の「2：見出し行」を実行
 - (5) 「書式」メニューの「見出し設定」を実行
- 「書式」メニューの「見出し設定」を実行すると、次のような画面が現れます。

見出し設定(C)	設定(S)
	解除(D)
	一括解除(C)

設定：カーソルが位置する行に「見出し行」の属性が設定されます。

解除：カーソルが位置する行に設定されている「見出し行」属性が解除されます。

一括解除：文書全体に渡って設定されている「見出し行」属性が一括解除されます。

マーク行の設定・解除

マーク行の設定を行うと、カーソル移動機能によって、次のマーク行とか、前のマーク行の機能を用いて、設定した行にカーソルを移動させることができます。

マーク行の設定または解除を行う際には、目的の行にカーソルをおいて、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) 点字コマンドの「ぬ」

マーク行の「設定」、「解除」が交互に切り替わります。

または

- (2) Escメニューの「E：属性」の「3：マーク行」を実行
 - (3) テンキーメニュー「2：属性」の「3：マーク行」を実行
 - (4) 「書式」メニューの「マーク設定」を実行
- 「書式」メニューの「マーク設定」を実行すると、次のような画面が現れます。

マーク設定(M)	設定(S)
	解除(D)
	一括解除(C)

設定：カーソルが位置する行に「マーク行」の属性が設定されます。

解除：カーソルが位置する行に設定されている「マーク行」属性が解除されます。

一括解除：文書全体に渡って設定されている「マーク行」属性が一括解除されます。

インデント（字下げ）

インデントとは

点字の文書ではあまり多用されませんが、次の文書のように一定の字下げをして文書を書くことがあります。

しつもん この なつの きゅーし つ ふりかえ けいやくの ◎
・ し っせきを とー ひょーかしますか。↓
・ こたえ ことしわ れいかた ったか、 らいねん いこー ◎
・ せきゅ じょーせいか とー なるか しんは いて ◎
・ ある。 て んりょく じゅよーを へいじゅんかする ための ◎
・ と りょくわ きちよーな し っせきと うけとめて いる。 ◎

このような場合、行頭でいちいちスペースの入力やタブの入力を行う方法もありますが、あとで修正や編集を行う際、または1行の文字数が増えたり減ったりした際には非常に面倒な作業となってしまいます。そこで、インデントの機能を用います。インデントを設定しておく、行頭でスペースの入力を行うことなく、ソフトが字下げを行ってくれます。

インデントの設定・解除・変更

インデントの設定または解除、あるいは一度設定したインデントのマス数を変更する際には、字下げの開始行にカーソルを置いて、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) Escメニューの「X：インデント」を実行
- (2) テンキーメニューの「*：インデント」を実行
- (3) 「編集」メニューの「インデント」

次のような画面が現れます。

インデント設定(I) 設定(S)
 解除(D)
 変更(C)

設定： インデントを設定する場合、または一度設定したインデントのマス数を変更する場合これを実行します。インデント設定のための数字入力行が現れ、現在の設定値が表示されます。新たに設定したい数値を入力してください。これで設定または変更されるのは、カーソルが位置する行から次の改行マークまでの文書です。

解除： 既に設定したインデントを解除する場合、これを実行してください。これで解除されるのは、カーソルが位置する行から次の改行マークまでの文書です。

変更： 設定されたインデントを行単位で範囲を指定して変更する場合にこれを実行してください。「インデント変更どこまで」というメッセージが現れますので、変更終了行にカーソルを移動してエンターキーを押してください。そのあとインデント変更のための数字入力画面が現れます。

単語短文登録・呼出し

単語・短文登録機能とは

単語（最大64字）、短文（最大512字）を登録し、必要に応じてそれを文書中に呼び出すことができます。この機能を利用することによって、文字入力の効率アップを図ることができます。

単語短文とも「あ」から「わ」までのかな50音のホットキーによって登録・呼び出しができるようになっており、その50音のホットキーが単語は1から6まで、短文は1、2と設定できるようになっています。特に点字入力時には、スペースキーまたは無変換キー（[Nfer]キー）と点字キーとの組み合わせによって、単語登録1は1タッチで、単語登録2から6までは2タッチで呼び出しができます。また単語短文登録ファイルは、任意に作成・切替えが可能ですから、作成文書の分野別などで作成し、切り替えて利用することも可能です。

単語を登録するには

単語を登録するには、登録画面で入力する方法と、既に文書に書かれたものを指定する方法とがあります。入力登録する場合は任意のカーソル位置で、既に文書に書かれたものを参照登録する場合は、その開始位置にカーソルを置いて、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[F・5]
- (2) Escメニューの「A：単語短文」を選択し、「単語登録1から6」のいずれかを実行
- (3) [Ctrl]+[A]で「単語短文」を選択し、「単語登録1から6」のいずれかを実行
- (4) テンキーメニューの「,：単語短文」を選択し、「単語登録1から6」のいずれかを実行
- (5) 点字コマンドの「4、5の点」
- (6) 「挿入」メニューの「単語短文」を選択し、「単語登録」を実行

以下のような画面が現れます。

単語登録

ページ

- ☒ 1 頁(1) ☐ 2 頁(2) ☐ 3 頁(3)
☐ 4 頁(4) ☐ 5 頁(5) ☐ 6 頁(6)

登録位置(P)

- ア〈未登録〉
イ〈未登録〉
ウ〈未登録〉
エ〈未登録〉
オ〈未登録〉
カ〈未登録〉
キ〈未登録〉
ク〈未登録〉
ケ〈未登録〉
コ〈未登録〉

OK

キャンセル

登録位置 : 登録のかなホットキーを選択してください。

ページ : 登録番号を選択してください。

登録ホットキーを選択すると、以下のような画面が現れます。

単語登録		
登録文字列(N)		
参照(R)	登録(A)	キャンセル

登録文字列 : 入力登録を行う際は、ここに文字列を入力してください。

参照 : 文書の参照登録を行う際には、これを実行してください。「単語登録どこまで」というメッセージが現れますので、登録したい文字の終点にカーソルを移動し、エンターキーを押してください。

登録した単語を呼び出すには

登録した単語を作成文書中に呼び出すには、呼出し位置にカーソルをおいて、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) Escメニューの「A: 単語短文」を選択し、「単語呼出し1から6」のいずれかを実行
- (2) [Ctrl]+[A]で「単語短文」を選択し、「単語呼出し1から6」のいずれかを実行
- (3) テンキーメニューの「, : 単語短文」を選択し、「単語呼出し1から6」のいずれかを実行
- (4) 「挿入」メニューの「単語短文」を選択し、「単語呼出し」を実行

単語登録一覧の画面が現れます(単語登録の項を参照)。呼び出したい単語を選択し、実行してください。

点字キー操作による単語呼出し

前項の単語呼出し方法では、文書作成の効率アップにはなりません。どのホットキーに何を登録したか確認する際に利用してください。点字入力を行っている際には、単語登録1に登録された単語は1タッチで、それ以外のものは2タッチで呼び出せます。

スペースキーまたは無変換キー([Nfer]キー)と呼出しキー(点字キーで)を同時に押してください。スペースキーを使用するか無変換キー([Nfer]キー)を使用するかは「モード設定」メニューの「スペース+点字キー」の設定状態によって異なります。スペース+点字キーの機能が「コマンドキー」に設定されている際には、無変換キー([Nfer]キー)+点字キーが単語呼出しキーとなります。

単語登録2から6に登録された単語を呼び出すには、まず呼出し番号の下がり数字(2、3の点から2、3、5の点まで)とスペースキーまたは無変換キー([Nfer]キー)を同時に押し、そのあと呼び出しキーを入力してください。

短文を登録するには

短文登録は、文書に書かれている文字を範囲指定して登録します。カーソルを始点に置いて以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[F・2]
- (2) Escメニューの「A: 単語短文」を選択し、「短文登録1から2」のいずれかを実行
- (3) [Ctrl]+[A]で「単語短文」を選択し、「短文登録1から2」のいずれかを実行

(4) テンキーメニューの「, : 単語短文」を選択し、「短文登録 1 から 2」のいずれかを実行

(5) 点字コマンドの「む」

(6) 「挿入」メニューの「単語短文」を選択し、「短文登録」を実行

短文登録ホットキー設定画面が現れます（単語登録の項を参照）。登録番号、ホットキーを選択して実行してください。

「短文登録どこまで」というメッセージが現れますので、終点にカーソルを移動してエンターキーを押してください。

登録した短文を呼び出すには

登録した短文を作成文書中に呼び出すには、呼出し位置にカーソルをおいて、以下のいずれかの操作を行ってください。

(1) [Ctrl]+[F・3]

(2) Escメニューの「A : 単語短文」を選択し、「短文呼出し 1 から 2」のいずれかを実行

(3) [Ctrl]+[A]で「単語短文」を選択し、「短文呼出し 1 から 2」のいずれかを実行

(4) テンキーメニューの「, : 単語短文」を選択し、「短文呼出し 1 から 2」のいずれかを実行

(5) 「挿入」メニューの「単語短文」を選択し、「短文呼出し」を実行

短文登録一覧の画面が現れます（単語登録の項を参照）。呼び出したい短文を選択し、実行してください。

点線

点線とは

ワープロで罫線を引くような感覚で、表紙の枠などの点線を引くことができます。縦や横の直線はもちろん、対角線を指定すればボックスの枠を引くことができます。

点線を引くには

点線を引く際には、始点にカーソルを置いて以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[K]
 - (2) Escメニューの「K：点線」を実行
 - (3) テンキーメニューの「1：点線」を実行
 - (4) 点字コマンドの「け」
 - (5) 「挿入」メニューの「点線」を選択
- 「挿入」メニューの「点線」サブメニューには以下のメニューが用意されています。

点線(G)	細線(S)
	太線(B)
	こたこた(K)

点線の種類を選択して実行してください。「何々線どこまで」というメッセージが現れますので、カーソルを終点に移動してエンターキーを押してください。指定した点線が引かれます。

※ 点線がすでに書かれた文字の上に当たるような場合、書かれた文字は点線文字に書き替えられてしまいますのでご注意ください。

変換

変換とは

一度入力した点字表示文字をかな表示文字や英語表示文字に変換したり、かな表示文字を点字表示文字に変換することができます。また、変換の範囲を文書全体や、頁単位または行単位で範囲指定して行うことができます。

変換を行うには

変換を行う際には、全文変換を行う場合には任意のカーソル位置で、行単位・頁単位で変換を行う場合には、その開始行または開始頁にカーソルを置き、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [F・6]
- (2) Escメニューの「N：ツール」の「1：変換」を実行
- (3) テンキーメニューの「-：ツール」の「1：変換」を実行
- (4) 点字コマンドの「や」
- (5) 「編集」メニューの「変換」を選択
「編集」メニューの「変換」のサブメニューには、次のようなメニューがあります。

変換(X)	点字変換(B)
	かな変換(K)
	英語 変換(E)

点字変換：指定範囲の文字をすべて点字表示文字に変換します。

かな変換：指定範囲の文字をかな表示文字に変換します。ただし、1単語中に1文字でもかな表示文字が含まれている単語については変換は行われません。また、この際の変換は、「かな点字モード」でキーボードから入力する際の表示方式に準じます。括弧類など記号類の多くについては点字表示のまま変換されないものがありますのでご注意ください。

英語変換：指定範囲中の点字表示文字をすべて英文とみなして、アルファベット表示文字等に変換します。

変換の種類を選択して実行してください。次のような処理単位選択の画面が現れます。

点字変換
処理単位
<input checked="" type="radio"/> 全文(A) <input type="radio"/> 頁単位(P) <input type="radio"/> 行単位(L)
OK キャンセル

全文：これを選択すると、ただちに変換が行われます。

行単位・頁単位：これを選択すると、「点字変換どこまで」のようにメッセージが現れます。変換範囲の終了行または頁にカーソルを移動してエンターキーを押してください。

頁の付け替え

頁の付け替えとは

頁削除や頁挿入を行ったり、文書の追加読み込みを行ったりするときなど、点訳頁が連続した数字ではなくなってしまいがちです。これを手作業で1つずつ修正するのは非常に手間のかかる作業となってしまいます。そこで、基本となる頁をもとに、以降の点訳頁を自動的に連続した数字に置き換える機能を用意してあります。

頁を付け替えるには

頁を付け替えるには、頁を付け替えたい開始頁の頁位置に基本となる頁を付け、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[F・6]
- (2) Escメニュー「N：ツール」の「2：頁付け替え」を実行
- (3) テンキーメニュー「-：ツール」の「2：頁付け替え」を実行
- (4) 点字コマンドの「り」
- (5) 「編集」メニューの「頁付け替え」を実行

次のような画面が現れます

頁付け替え

処理範囲

☒カーソル以降(A)

☐範囲指定(R)

OK

キャンセル

処理範囲を選択して実行してください。

カーソル以降：現在カーソルが位置する頁以降の全頁を付け替えます。これを選択して実行すると、ただちに頁の付け替え作業が開始されます。

範囲指定：頁付け替えを行う範囲が指定できます。「頁付け替えどこまで」というメッセージが現れます。頁付け替えを行う最終頁にカーソルを移動してエンターキーを押してください。

※ この頁付け替えの機能は、点字下がり数字にも対応しています。ただし、下がり数字から始まって通常の数字で頁付けがなされている頁に達した場合、あるいはその逆の場合はその時点で頁の付け替えを終了します。

自動目次作成

自動目次作成とは

プログラムが目次対象行を自動解析したり、見出し設定行のみを抽出して目次を作成することができます。

目次を作成するには

自動目次作成を行うには、目次を作成したい頁にカーソルを置いて、次のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Shift]+[F・6]
- (2) Escメニュー「N：ツール」の「3：目次作成」を実行
- (3) テンキーメニュー「-：ツール」の「3：目次作成」を実行
- (4) 「編集」メニューの「目次作成」を実行

次のような処理範囲指定の画面が現れます。

目次作成	
処理範囲	
<input type="radio"/> カーソル以降(A)	<input type="radio"/> 範囲指定(R)
OK	キャンセル

処理範囲を選択して実行してください。

カーソル以降：現在カーソルが位置する頁以降の全文を目次抽出対象文書として扱います。

範囲指定：目次抽出対象文書の範囲が指定できます。「目次作成どこまで」というメッセージが現れますので、目次抽出したい最終頁にカーソルを移動してエンターキーを押してください。

次のような処理方法選択の画面が現れますので、処理方法を選択して実行してください。

目次作成	
処理方法	
<input type="radio"/> 自動解析(A)	<input type="radio"/> 見出し設定行(M)
OK	キャンセル

自動解析：プログラムが、5マス以上字下げされて書かれた行を目次行として自動抽出して、目次を作成します。

見出し設定行：行属性の「見出し設定」がなされた行のみを目次行として抽出し、目次を作成します。

“ブレイルブリッジ for Windows”の 自動翻訳機能を呼び出す

本ソフトとともに“ブレイルブリッジ for Windows”がインストールされている場合、クリップボードを介して、普通字文書を点字文書に、また点字文書を普通字文書に自動翻訳することができます。

普通字文書を点字文書に自動翻訳するには

1. 変換元のデータは、エディタ・ワープロなど普通字を扱うアプリケーションソフトで、変換範囲を指定し、「編集メニュー」などにある「コピー」を実行するだけです。
2. “ブレイルスター for Windows”の「編集メニュー」には、「クリップボードから変換して貼り付け」というメニューが用意されていますので、それを実行してください。また、[Ctrl]+[Shift]+[V]としてホットキーが割り当てられていますので、文書作成状態でこれを入力すれば、コマンドが実行されます。
3. 「変換文字」「英字処理」などの変換条件は、“ブレイルスター for Windows”の「編集メニュー」に「クリップボードから変換して貼り付け設定」というメニューが用意されており、設定することができます。これは1度設定すれば、次回の変換の際にも参照されますので、同じ条件で変換を行う場合には、毎回設定する必要はありません。

点字文書を普通字文書に自動翻訳するには

1. “ブレイルスター for Windows”の「編集メニュー」には、「変換してクリップボードへコピー」というメニューが用意されています。変換範囲の先頭業にカーソルを置いてそれを実行してください。また、[Ctrl]+[Shift]+[C]としてホットキーが割り当てられていますので、文書作成状態でこれを入力すれば、コマンドが実行されます。
2. 「変換文字」「英字処理」などの変換条件は、“ブレイルスター for Windows”の「編集メニュー」に「変換してクリップボードへコピー設定」というメニューが用意されており、設定することができます。これは1度設定すれば、次回の変換の際にも参照されますので、同じ条件で変換を行う場合には、毎回設定する必要はありません。
3. 変換結果のデータは、エディタ・ワープロなど普通字を扱うアプリケーションソフトで、「編集メニュー」などにある「貼り付け」を実行すれば、取り出すことができます。

点字印刷

点字プリンタ機種設定

点字印刷を行うにあたって、ご使用になる点字プリンタの機種・出力先（パソコンと点字プリンタとの接続方法）の設定を行ってください。設定を行うには、以下のいずれかの操作を行ってください。

- （１）Escメニューの「G：環境設定」の「O：点字プリンタ」を実行
- （２）[Ctrl]+[G]で「環境設定」を開き「O：点字プリンタ」を実行
- （３）「ファイル」メニューの「点字プリンタの設定」を実行

次のような設定画面が現れます。

点字プリンタの設定			
種類：（T）	BP1C		
出力先（O）			
LPT1	LPT2	LPT3	
COM1	COM2	COM3	COM4
出力条件			
通信速度（S）：	9600		
データビット（D）	8ビット		
フロー制御(F)			
OK	キャンセル		

種類：ご使用になる点字プリンタの機種を一覧から選択してください。

出力先：印刷データの出力先の設定です。「プリンタドライバ」と使用可能なCOMポートが指定できます。プリンタドライバを使用されることをおすすめいたします。

通信速度：出力先をCOMポートに指定した場合の通信速度の設定です。点字プリンタの設定と合わせてください。

データビット：出力先をCOMポートに指定した場合のデータビットの設定です。点字プリンタの設定と合わせてください。

フロー制御：出力先をCOMポートに指定した場合のフロー制御の設定です。点字プリンタの設定と合わせてください。

「点字プリンタ設定」の「出力先」で「プリンタドライバ」を選択し、次の画面に進むと、インストールされているプリンタドライバの一覧が現れます。ネットワークプリンタドライバもここで選択が可能です。

既に他社製ソフトで点字印刷に使用しているドライバがありましたら、それと同じものを選択してください。

そうでない場合は、活字プリンタで使用していないドライバを選択してください。例えば、Windows標準で「Microsoft Office Document Image Writer」や「Microsoft XPS Document Writer」などが選択可能かと思われます。

何もない場合は、Windowsの「プリンタ」で、プリンタドライバを追加してから、改めてこの設定を行

ってください。

Windows の プ リ ン タ 設 定

既に他社製ソフトで点字印刷に使用しているドライバを選択した場合は、設定は完了しているはずですから、改めて設定を行う必要はありません。

スタートメニューの「設定メニュー」の「プリンタ」を開きます。Windowsの種類によって、「デバイスとプリンタ」だったり、「プリンタとFAX」だったり、多少の違いはあります。

先のブレイルスターの設定で、設定するドライバがなかった場合、まず「プリンタの追加」で使用するプリンタドライバを追加します。

ドライバ名が未選択の状態で、Altキーなどを押してメニューを開くと、「プリンタの追加」が選択できます。ネットワークドライバを追加する場合も、ここで行います。

点字プリンタがご使用のパソコンに接続されている場合は、「ローカルプリンタ」の追加を行います。「Generic / Text Only」を追加することをおすすめしますが、他の適当なプリンタドライバでも構いません。

プ リ ン タ ド ラ イ バ の 出 力 ポ ー ト の 設 定

ローカルプリンタの場合、出力ポートの設定を行ってください。使用するプリンタドライバを選択し、Altキーなどを押してメニューを開き、「プロパティ」を開きます。

ポートタブで出力ポートを設定してください。COMポートの場合、「ポートの構成」で通信条件の設定も行ってください。プリンタプールは無効に設定されることをおすすめいたします。

点 字 印 刷 を 行 う に は

点字印刷を行う際には、全文印刷を行う場合には任意のカーソル位置で、範囲指定印刷を行う場合には、その開始頁にカーソルを置いて、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[P]
- (2) [Shift]+[Ctrl]+[F・10]
- (3) Escメニューの「P：点字印刷」を実行
- (4) テンキーメニューの「.：点字印刷」を実行
- (5) 点字コマンドの「2、3、4、6の点」
- (6) 「ファイル」メニューの「点字印刷」を実行

次のような印刷範囲指定画面が現れます。

印刷範囲

選択してください

1: 全文

2: 範囲指定

全文：これを選択すると、次の印刷条件設定画面が現れます。

範囲指定：これを選択すると、「印刷範囲どこまで」というメッセージが現れますので、カーソルを印刷終了頁に移動してエンターキーを押してください。

点字印刷

部数:1 開始頁:1 終了頁:1 余白:0 印刷面:片面

1: 実行

2: 部数指定

3: 開始頁

実行 : これを選択すると印刷が開始されます。

部数指定 : これを選択すると、印刷部数の指定ができます。最初は1部に設定されています。

開始頁・終了頁 : それぞれの頁数が設定されています。ここでこれらを選択し、設定することも可能です。

余白設定 : これを選択すると、点字印刷の際の左余白をマス単位で設定できます。

印刷面 : この設定は、プリンタの機種やページ書式の設定状況によって現れる場合と現れない場合があります。また、その設定内容も設定状況によってさまざまに異なります。たとえば以下の設定画面は、表面・裏面別印刷で、1頁の行数を18マスに設定されている場合に現れる設定内容です。

印刷面

選択してください

1: 片面

2: 両面表

3: 両面裏

4: 両面連続

片面 : 全文を片面印刷します。

両面表 : 奇数頁の印刷のみを行います。

両面裏 : 偶数頁の印刷のみを行います。

両面連続 : 奇数頁の印刷を行ったあと、キー入力待ちの状態となり、キー入力によってすぐに偶数頁の印刷を行います。

墨字印刷

墨字印刷とは

墨字とは点字に対して普通字のことをいいます。本ソフトにおいて普通字の印刷を行う用途には、紙面上で作成文書の校正を行う際、実大点字印刷によって、立体コピー点字の原紙を作成することなどがあげられます。

墨字プリンタ設定

墨字印刷を行うにあたって、ご使用になる墨字プリンタ（通常の活字プリンタです）の機種の設定を行ってください。Windowsシステムにプリンタが設定されていることが前提となります。また、数種類のプリンタが設定されている可能性もあります。設定を行うには、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) Escメニューの「G：環境設定」の「1：墨字プリンタ」を実行
- (2) [Ctrl]+[G]で「環境設定」を開き「1：墨字プリンタ」を実行
- (3) 「ファイル」メニューの「墨字プリンタの設定」を実行

たとえば次のような画面が現れます。

墨字プリンタの設定

プリンタ

名前(N):	Canon BJC-35v
状態:	通常使うプリンタ オンライン
種類:	ローカル プリンタ
場所:	LPT1:
	OK キャンセル

墨字印刷を行うには

墨字印刷を行う際には、全文印刷を行う場合には任意のカーソル位置で、範囲指定印刷を行う場合には、その開始頁にカーソルを置いて、以下のいずれかの操作を行ってください。

- (1) [Ctrl]+[Z]
 - (2) [Shift]+[Ctrl]+[F・9]
 - (3) Escメニューの「Z：墨字印刷」を実行
 - (4) テンキーメニューの「3：墨字印刷」を実行
 - (5) 点字コマンドの「2、3、6の点」
 - (6) 「ファイル」メニューの「墨字印刷」を実行
- 次のような印刷範囲指定画面が現れます。

印刷範囲

選択してください

1: 全文 2: 範囲指定

全文：これを選択して実行すると、ただちに次の印刷設定画面が現れます。

範囲指定：これを選択して実行すると、「印刷範囲どこまで？」というメッセージが現れます。墨字印刷終了頁にカーソルを移動してエンターキーを押してください。その後、次の墨字印刷設定画面が現れます。

墨字印刷

部数:1 開始頁:1 終了頁:1 余白:0 印刷方法:文書印刷 印刷面:片面

1:実行 2:部数指定 3:開始頁 4:終了頁

5:余白設定 6:印刷方法 7:印刷面

実行：これを選択すると印刷が開始されます。

部数：これを選択すると、印刷部数の指定ができます。最初は1部に設定されています。

開始頁：印刷開始頁が設定されています。ここで変更も可能です。

終了頁：印刷終了頁が設定されています。ここで変更も可能です。

余白：印刷の際の左余白が文字単位で設定されています。最初は0に設定されています。

印刷方法：これを選択すると、以下のような設定画面が現れます。

印刷方法

選択してください

1:文書印刷 2:点訳印刷 3:実大点字印刷

4:点訳同時印刷 5:かな同時印刷 6:英語同時印刷

文書印刷：画面表示と全く同じ表示で印刷を行います。

点訳印刷：画面表示にかかわらず、すべて点字表示文字で印刷を行います。

実大点字印刷：実大点字の大きさを印刷を行い、行数や頁数などの情報印刷は行いません。（次章でさらに詳しく解説があります。

点訳同時印刷：かな表示で文書を作成している場合、かな表示行の下に点字表示行の印刷が行われます。

かな同時印刷：点字表示で文書を作成している場合、点字表示行の下にかな表示行の印刷が行われます。

英語同時印刷：点字表示で文書を作成している場合、点字表示行の下に英語表示行の印刷が行われます。

印刷面：これを選択すると、次のような設定画面が現れます。

印刷面

選択してください

1:片面 2:両面表 3:両面裏 4:両面連続

片面：全文を片面印刷します。

両面表：奇数頁の印刷のみを行います。

両面裏 : 偶数頁の印刷のみを行います。

両面連続 : 奇数頁の印刷を行ったあと、キー入力待ちの状態となり、キー入力によってすぐに偶数頁の印刷を行います。

「イージータクティクス」への点字 文字印刷について

立体イメージプリンタ「イージータクティクス」への点字文字印刷は、「墨字印刷」の「印刷方法」を「実大点字印刷」に設定して印刷します（点図印刷には対応しておりません）。とてもクリアかつ、なめらかな点字で印刷され、磨耗の恐れがありません。

1ページ行数設定が18行まではインターラインの行間で、19行から34行までは片面22行の行間で、35行以上は行間なしで印刷されます。

起動許可設定の解除

本プログラムをアンインストールする場合には、必ず「起動許可設定」の解除を行ってください。
「起動許可設定」を解除するには、「ヘルプ」メニューの「起動許可設定の解除」を実行します。

点字キーポジションの設定

パーキンスキーまたはライトキーの点字キー位置や、文字キー内に割り当てられたコマンドキーの位置については、自由に設定を変更してご使用いただくことができます。出荷時の設定では点字キー入力動作しないキーボードであっても、位置を変更することによって、点字キー入力が可能となる場合があります。

点字キー等の位置を変更する場合は、「機器設定」メニューの「キーポジション設定」を実行してください。次のような画面が現れます。

キーポジション設定	×
入力方式(I)	OK
◎パーキンス	キャンセル
○ライトブレイラー	
機能(F):	1 の点
対応キー(K):	
A	
B	6 点入力テスト(T)
C	出荷時設定を読み込む(D)

入力方式 : パーキンスまたはライトブレイラーの点字入力方式を設定してください。

機能 : 1 の点から 6 の点までの点ナンバーや、コマンドの機能を選択してください。

対応キー : 選択した機能をキーボードのどの位置に割り当てるか指定してください。

6 点入力テスト : 設定した点字キーの位置で、6 つの点＋スペースキーの同時入力が正常に動作するか否かのテストが行えます。

アンインストール

1. 本プログラムをアンインストールするにあたって、「起動許可設定」を設定している場合には、必ずその解除を行ってください。（前章参照）
2. 本プログラムをアンインストールするには、「スタートメニュー」の「すべてのプログラム」の「ブレイルスター for Windows」のサブメニューにある「アンインストールブレイルスター for Windows」を実行してください。
3. Tabキーを押します。
4. 「ブレイルスター for Windowsの修復」となっていますので、カーソルキーで「削除」に併せてエンターキーを押します。
5. 以降画面の指示に従って操作します。

付録

ホットキー・コマンド一覧

[F・1]	カーソルを前頁へ移動
[F・2]	カーソルを次頁へ移動
[F・3]	カーソルを任意の頁へ移動
[F・4]	1 行削除
[F・5]	1 行挿入
[F・6]	文字変換
[F・7]	入力モード読上げ
[F・8]	属性読上げ
[F・9]	カーソル位置読上げ
[F・10]	プログラム終了
[F・11]	単語上移動
[F・12]	単語下移動
[Page Up]	カーソル前頁へ移動
[Page Down]	カーソル次頁へ移動
[Home]	カーソルを行左端へ移動
[End]	カーソルを行右端へ移動
[Ins]	挿入・上書切替え
[Del]	1 文字削除
[変換]	文字モード切替え

[Shift] キー+ホットキーコマンド一覧

[Shift]+[F・1]	行書式設定
[Shift]+[F・2]	見出し行の設定
[Shift]+[F・3]	前方向検索
[Shift]+[F・4]	頁削除
[Shift]+[F・5]	頁挿入
[Shift]+[F・6]	目次作成
[Shift]+[F・7]	検索語登録
[Shift]+[F・8]	後方向検索
[Shift]+[F・9]	ピンディスプレイ連続読み
[Shift]+[F・10]	編集中文書名読上げ
[Shift]+[F・11]	総頁数読上げ
[Shift]+[Home]	音声連続読み
[Shift]+[End]	ピンディスプレイ連続読み
[Shift]+[Page Up]	カーソルを頁付け位置へ移動
[Shift]+[Page Down]	カーソルを頁文末へ移動
[Shift]+[Ins]	単語上移動
[Shift]+[Del]	1行削除
[Shift]+[Bs]	カーソル位置から行末まで削除
[Shift]+[↑]	前方向検索
[Shift]+[↓]	後方向検索
[Shift]+[←]	カーソルを行左端へ移動
[Shift]+[→]	カーソルを行右端へ移動
[Shift]+[エンター]	カーソルを次行頭へ移動

[Ctrl] キー+ホットキーコマンド一覧

[Ctrl]+[F・1]	カーソル行表示設定
[Ctrl]+[F・2]	文書登録
[Ctrl]+[F・3]	文書呼び出し
[Ctrl]+[F・4]	閉じる
[Ctrl]+[F・5]	単語登録
[Ctrl]+[F・6]	頁の付け換え
[Ctrl]+[F・7]	タブ設定・解除
[Ctrl]+[F・8]	未使用
[Ctrl]+[F・9]	未使用
[Ctrl]+[F・10]	未使用
[Ctrl]+[Home]	カーソルを文書頭へ移動
[Ctrl]+[End]	カーソルを文書末へ移動
[Ctrl]+[Page Up]	カーソルを文書頭へ移動
[Ctrl]+[Page Down]	カーソルを文書末へ移動
[Ctrl]+[Ins]	単語上移動
[Ctrl]+[Del]	カーソル位置から段落末までを削除
[Ctrl]+[Bs]	段落頭からカーソル位置までを削除
[Ctrl]+[↑]	カーソルを前句読点へ移動
[Ctrl]+[↓]	カーソルを次句読点へ移動
[Ctrl]+[←]	カーソルを段落頭へ移動
[Ctrl]+[→]	カーソルを段落末へ移動

[Shift] キー + [Ctrl] キー + ホットキー コマンド 一覧

[Shift]+[Ctrl]+[F・1]	文書読み込み（閉じて開く）
[Shift]+[Ctrl]+[F・2]	文書書き込み（名前を付けて保存）
[Shift]+[Ctrl]+[F・3]	文書の追加読み込み
[Shift]+[Ctrl]+[F・4]	削除
[Shift]+[Ctrl]+[F・5]	複写
[Shift]+[Ctrl]+[F・6]	移動
[Shift]+[Ctrl]+[F・7]	文字列の置き換え
[Shift]+[Ctrl]+[F・8]	未使用
[Shift]+[Ctrl]+[F・9]	墨字印刷
[Shift]+[Ctrl]+[F・10]	点字印刷
[Shift]+[Ctrl]+[End] ([Help])	入力モード音声読上げ
[Shift]+[Ctrl]+[Page Up]	カーソルを頁頭へ移動
[Shift]+[Ctrl]+[Page Down]	カーソルを頁下端へ移動
[Shift]+[Ctrl]+[↑]	カーソルを前句点へ移動
[Shift]+[Ctrl]+[↓]	カーソルを次句点へ移動
[Shift]+[Ctrl]+[←]	カーソルを前単語頭へ移動
[Shift]+[Ctrl]+[→]	カーソルを次単語頭へ移動

[Alt] キー+ホットキーコマンド一覧

[Alt]+[F・1]	音声発声モードの切替え
[Alt]+[F・2]	ピンディスプレイ表示のON/OFFの切替え
[Alt]+[F・3]	ひとマス読み/ノーマル読みの切替え
[Alt]+[F・4]	プログラム終了
[Alt]+[F・5]	音声発声スピードの切替え
[Alt]+[F・6]	未使用
[Alt]+[F・7]	1行読みON/OFFの切替え
[Alt]+[F・8]	ピンディスプレイカーソル表示切替え
[Alt]+[F・9]	ピン連続読み待ち秒数切替え
[Alt]+[F・10]	音声連続読み詳細/なめらか切替え
[Alt]+[Home]	テンキーの機能切替え
[Alt]+[↑]	カーソルを前見出し行へ移動
[Alt]+[↓]	カーソルを次見出し行へ移動
[Alt]+[.]	1行読み上げ
[Alt]+[,]	カーソル位置文字の詳細読上げ
[Alt]+[;]	カーソル位置読上げ
[Alt]+[@]	入力モード読上げ
[Alt]+[[総頁数読上げ
[Alt]+[-]	現在編集中文書名読上げ
[Alt]+[Q]	音声速度を速く
[Alt]+[A]	音声速度を遅く
[Alt]+[Z]	音程を高く
[Alt]+[X]	音程を低く
[Alt]+[P]	音量を大きく
[Alt]+[L]	音量を小さく
[Alt]+[T0]	現在カーソル位置行読上げ
[Alt]+[T5]	カーソル位置文字の詳細読上げ
[Alt]+[T8]	現在時刻読上げ

[Ctrl] キー+文字キーコマンド一覧

[Ctrl]+[A]	単語短文
[Ctrl]+[B]	タブの設定・解除
[Ctrl]+[C]	複写
[Ctrl]+[D]	削除
[Ctrl]+[E]	行属性
[Ctrl]+[F]	頁書式
[Ctrl]+[G]	モード設定
[Ctrl]+[H]	置換
[Ctrl]+[I]	挿入
[Ctrl]+[J]	カーソル移動
[Ctrl]+[K]	点線
[Ctrl]+[L]	改頁
[Ctrl]+[M]	移動
[Ctrl]+[N]	新規文書オープン
[Ctrl]+[O]	既存文書オープン（開く）
[Ctrl]+[P]	点字印刷
[Ctrl]+[Q]	プログラム終了
[Ctrl]+[R]	閉じて開く
[Ctrl]+[S]	文書上書き保存
[Ctrl]+[T]	ファイル操作メニュー
[Ctrl]+[U]	文字検索
[Ctrl]+[V]	メモリ複写
[Ctrl]+[W]	名前を付けて保存
[Ctrl]+[X]	インデント
[Ctrl]+[Y]	作成文書を閉じる
[Ctrl]+[Z]	墨字印刷

〔スペース〕 + 点字キー・コマンド一覧

〔スペース〕 + 【あ】	エンターキー
〔スペース〕 + 【い】	インサートキー
〔スペース〕 + 【う】	カーソルを頁の上端へ移動
〔スペース〕 + 【え】	入力文字、あるいは読み上げ文字モードの切り換え
〔スペース〕 + 【お】	連続読みスタート
〔スペース〕 + 【か】	カーソル位置の読み上げ
〔スペース〕 + 【き】	入力文字モードの切り換え
〔スペース〕 + 【く】	全文削除
〔スペース〕 + 【け】	点線
〔スペース〕 + 【こ】	複写
〔スペース〕 + 【さ】	1行削除
〔スペース〕 + 【し】	カーソルを頁の下端へ移動
〔スペース〕 + 【す】	後方向検索
〔スペース〕 + 【せ】	文書の保存（名前を付けて保存）
〔スペース〕 + 【そ】	1行挿入
〔スペース〕 + 【た】	タブキー
〔スペース〕 + 【ち】	文字列の置き換え
〔スペース〕 + 【つ】	カーソルを頁文末へ移動
〔スペース〕 + 【て】	移動
〔スペース〕 + 【と】	カーソルを文書頭へ移動
〔スペース〕 + 【な】	行中寄せ
〔スペース〕 + 【に】	カーソルを任意の頁に移動
〔スペース〕 + 【ぬ】	マーク行の設定・解除
〔スペース〕 + 【ね】	カーソルを次頁頭へ移動
〔スペース〕 + 【の】	ノーマル読みとひとマス読みの切り換え
〔スペース〕 + 【は】	カーソルを前頁頭へ移動
〔スペース〕 + 【ひ】	カーソルを行の左端へ移動
〔スペース〕 + 【ふ】	メモリ複写
〔スペース〕 + 【へ】	カーソルを頁づけ位置へ移動
〔スペース〕 + 【ほ】	カーソルを頁のホーム位置へ移動
〔スペース〕 + 【ま】	文書の追加読み込み
〔スペース〕 + 【み】	カーソルを行の右端へ移動
〔スペース〕 + 【む】	文書登録
〔スペース〕 + 【め】	プログラム終了
〔スペース〕 + 【も】	検索文字入力
〔スペース〕 + 【や】	変換
〔スペース〕 + 【ゆ】	1頁挿入
〔スペース〕 + 【よ】	ピン連続読み
〔スペース〕 + 【ら】	カーソルを文書末へ移動
〔スペース〕 + 【り】	頁の付け換え
〔スペース〕 + 【る】	ピンディスカーソル切替え
〔スペース〕 + 【れ】	行末消去
〔スペース〕 + 【ろ】	文書の読み込み（閉じて開く）

〔スペース〕 + 【ん】	頁削除
〔スペース〕 + 【②】	→キー
〔スペース〕 + 【④】	←キー
〔スペース〕 + 【⑤】	D e l キー
〔スペース〕 + 【②③】	行書式解除
〔スペース〕 + 【⑤⑥】	行の右寄せ
〔スペース〕 + 【⑥】	E s c キー
〔スペース〕 + 【④⑤】	タブ位置のセット／リセット
〔スペース〕 + 【②⑤】	↑キー
〔スペース〕 + 【③⑥】	↓キー
〔スペース〕 + 【②③⑤⑥】	点字印刷
〔スペース〕 + 【②③⑥】	墨字印刷
〔スペース〕 + 【②⑤⑥】	文字詳細読み
〔スペース〕 + 【②③⑤】	見出し行の設定・解除
〔スペース〕 + 【④⑤⑥】	文書上書き保存

Windows版晴盲両用点字文書作成ソフト

ブレイルスター for Windows

バージョン 5

ユーザーズマニュアル

ニュー・フレイル・システム 株式会社

〒204-0022 東京都清瀬市元町 1-8-7-305

Tel 042(493)6646

ホームページアドレス : <http://www.nbs.co.jp/>

メールアドレス : nbs-support@nbs.co.jp

